

議題:第24号

令和7度 甲府市武田氏館跡歴史館の 臨時開館について

1 臨時開館日

臨時開館日：令和7年9月24日（水）

2 臨時開館について

甲府市武田氏館跡歴史館は甲府市武田氏館跡歴史館条例（以下、「条例」という。）により、火曜日が休館日と定められているが、火曜日が祝日の場合は、同条例により、その翌日が休館日となる旨定められている。

よって、令和7年9月24日（水）は休館日となるところであるが、施設の指定管理者より、団体から9月24日に来館依頼の相談があったことから、臨時開館を希望する旨の申請がなされた。

臨時開館の決定については、条例により、教育委員会の承認が必要となることから、この件について、教育委員会に諮ることとする。

3 甲府市武田氏館跡歴史館条例（抜粋）

第6条 歴史館の休館日は、次のとおりとする。

- （1）火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その翌日）

- 4 （中略）指定管理者が特に必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、歴史館を臨時に開館し、若しくは休館し、又は開館時間を変更することができる。

令和 7 年度

教育委員会総合教育視察結果の集約

◇視察日時

令和 7 年 6 月 2 0 日（金）

◇視察目的

学校経営についてその管理運営や指導体制のあり方を確認する。加えて、児童生徒の学校生活の様子を把握する。

◇視察の観点

- ・学校経営（学校の特色、信頼される学校づくり、生徒指導体制、児童生徒の様子 等）
- ・防犯体制（児童生徒の安全管理、安全確保・不審者侵入時の危機管理 等）
- ・備品等の管理状況の確認（G I G A 端末保管状況、薬品庫 等）

◇視察報告の集約

- 1) 学校経営全般
- 2) 防犯体制・施設・備品管理体制
- 3) その他

1) 学校経営全般

○学校全体の様子や学校運営について

- ・学校全体が落ち着いた雰囲気子どもたちも明るく元気に生活している様子がうかがえた。
- ・学校全体にしっとりとした落ち着きを感じられ、生徒の表情も柔和で明るい笑顔が目立っていた。授業風景をみても、教師と生徒の良好な関係が想像された。
- ・子どもは元気に挨拶し、授業は教師の指導の下に進められており、全体的に落ち着いた状況であった。
- ・対話的な授業が多く、児童一人一人の状況にあわせた声かけが多く見られた。
- ・小規模校など単級の学校は担任の仕事量が多い。一人ひとりの背負う責任が大きいので先生方の連携がとても重要である。
- ・指導的立場に立つ教員の負担が、一見問題なく見えていても意外に負担感を強く感じていることがある。過重にならないようにする配慮を心がけてほしい。

報告：第11号

○働き方改革について

- ・休みやすい環境を整えるなど、多くの学校で教員の多忙化改善に向けた取組が進められている。
- ・学校要覧に日程表が掲載され、その欄外に部活動終了時刻及び下校時刻、学園祭強化期間などの項目ごとに生徒の下校時刻が示され、最後に職員の定時の出退勤時間が表示されているが、全ての下校時刻が職員の退勤時刻を過ぎていた。
- ・働き方改革の下に、教員の多忙化改善に向けての様々な取組が進められていることから現場においてもこれまでの慣行を見直していかなければと思う。

○教員の育成について

- ・若手教員の育成は共通の課題となっている。学校によっては職員構成において若手職員が多く、中堅やベテラン職員が少なく若手の指導、相談に十分に対応できないことから管理職が若手の授業を見て回り、指導を行っている。
- ・OJTといった場面では、取組後のフィードバックを大切にするとともに、指導側の教員にすべてを任せてしまわずに、適宜、教務や教頭がかかわることが必要だ。
- ・ベテランの先生を上手に活用した連携に取り組むことで、さらなるチームワークの良さの構築につなげていってほしい。
- ・豊かな経験を持つベテラン教員と新しい知識や技術、柔軟な感覚を持つ若手教員、それぞれの強みを互いに活かせるような環境作りは大切である。若手教員がやりがいを持って担任クラスや授業に臨んでいけるよう、学校全体で支え、育成したい。

○特別な配慮が必要な児童生徒の支援について

- ・各学校において、特別支援学級での個に応じた丁寧な指導や、特性のある児童生徒へのきめ細かな教育が実践されている。
- ・それぞれの児童生徒に合った教材の工夫が見られ、児童生徒が学習に集中できるような配慮がなされていた。
- ・特性が強い児童も見受けられたが、少しでも落ち着いてすごせるような環境への配慮など、学校の努力がうかがえた。
- ・特別支援級でもアンガーマネジメントの学習にICTを活用するなどしていた。
- ・校長室に特性を持つ子が安心できる場が用意されていたり、管理職が率先して特別支援学級の児童と関わったりするなど、全校職員で児童を見守っていこうとする姿勢が見られた。
- ・特別な支援が必要な児童生徒の数が増加しており、教室の確保や支援体制の整備が課題である。
- ・外国にルーツを持つ児童の文化や習慣にも配慮がみられる。
- ・様々な国にルーツを持つ児童については日本特有のマナーや礼儀作法など文化につながる事柄を身につけることも、将来的に大切である。
- ・様々なバックグラウンドの子どもの存在は他の児童にとっても多様性を理解していく過程で重要である。

○不登校対応について

- ・不登校傾向の児童生徒の増加に対して、各学校で児童生徒の居場所づくりが進められている。そのことが保護者の安心感にもつながっている。
- ・教室には入れない児童のために別室を設置したことは不登校児童の居場所として有効に活用されているようだ。それぞれの児童の事情やその心の回復度によって学級へ戻れる段階があることは大切である。
- ・気持ちメーターの積極的な活用を行い、いじめ対策を徹底して行っている。
- ・不登校傾向の生徒が教室に入る場面に遭遇したが、対象の生徒の表情が明るく、笑顔があり、養護教諭に背中を押され、にこやかに教室に入っていた姿が印象的だった。
- ・ほっとルームを効果的に活用し、生徒の自己肯定感や自己有用感の向上、いじめ等の防止にも継続して取り組んでいってほしい。

報告：第11号

○ICT教育の推進について

- ・多くの学校で1人1台端末の活用が進んでいる。様々な教科で、多岐にわたるICT活用が見られた。
- ・各教科、各学年で、指導者用デジタル教科書の活用が一般化している。デジタルの利点と、児童の視点に立ったアナログな操作を両立していた。また、デジタル教科書に限らず、各出版社で用意しているデジタルコンテンツの利用も意欲的に行われていた。
- ・1人1台端末の活用において十分に鍛えられた児童が、ツールとしてICTを活用する姿が見られた。
- ・Canvaや生成AIを活用した校内掲示や委員会活動などでも、ICTの利点を十分に活用しようとする、教員や児童生徒の姿勢が見られた。
- ・ICTと従来の紙と鉛筆を使ったバランスのよい授業づくりに取り組んでいる。

○地域との連携について

- ・各学校で地域連携を意識した取組が進められている。
- ・自治会の力、地域とのつながりが強いという強みを生かし、学習面や登下校面で学校ボランティアなど、地域の人たちの協力を得ている。
- ・CSを活用し、職場体験などに対応してもらうなど、地域との連携が見られた。特に地元の子を地元で育てるとする校長先生の言葉に、意識の高さが見られた。
- ・地域、文化、自然に教育が活かされているのを感じた。これらを地域とともに守り継承して行ってほしい。
- ・地域ボランティアが学校現場で活かされることは地域住民にとっても喜ばしいことと思う。児童と地域住民がお互いの顔を覚え、声を掛け合う関係であれば防犯にもつながる。
- ・防犯や防災についても地域の有識者との関わりを大切に講演会の実施や協力体制を築いている。

○保護者対応について

- ・担任が細やかに家庭と連絡をとり、初期段階で対応している。
- ・保護者からのクレーム対応についても、初期対応からの共有体制が整い、教員の負担の軽減につながっている。
- ・保護者対応に苦慮している。子どもの相談だけでなく、それ以外の話が長引き、教員の負担になっている。教職員の負担が大きくなるよう対策を講じる必要がある。
- ・保護者と学校（教員）との良好な関係が、生徒の成長に大きく関わっていくと考えられる。
- ・学年としての体制の中で、保護者対応も担任だけでなく複数で当たり、加えて、事案によっては教務（教頭）も加わるような形が望ましい。

2) 防犯体制・施設・備品管理体制

○防犯体制について

- ・学校の出入り口を常に施錠するなど、危機管理意識の高さを感じられた。
- ・さすまたが教室や出入り口付近の廊下に置かれ、防犯対策の意識が高いと感じた。学校で作成された危機管理マニュアルをもとに、今後も様々な対策に取り組んでいただきたい。
- ・避難訓練を複数回実施し、また不規則開催により意識の向上を図っている。
- ・水害時の対応には気を遣っている。来週垂直避難訓練をする。

報告：第11号

○施設・設備について

- ・多くの学校で施設の老朽化が課題となっている。
- ・児童数が多く、運動場、プール、体育館、理科室などローテーションで使っているが、限界がある。また、駐車場も少なく不便をしている。
- ・プールはかなり古く、毎年修繕をお願いしているが、運営が厳しくなっている。
- ・樹木の老朽化による倒木の危険性がある。

○備品管理について

- ・多くの学校で、理科室の薬品や、図工室、家庭科室の刃物類の管理状況、1人1台端末の充電庫の鍵の管理について、適正に管理されていることが報告された。
- ・管理簿の記載や適正な保管の仕方、廃棄が必要なものの管理等についての指導が行われた。

3) その他

○家庭学習・学習習慣について

- ・前年度の学校評価には、家庭学習の習慣化、「家庭」を含めた読書習慣など4項目が含まれていた。評価をして、その結果を翌年度の実践に生かすことは良い取組である。家庭での学習や読書の習慣化は、学習効果や学力向上が期待されることから必要とされる。
- ・家庭学習については学年ごとに定期的に提出させるなどの工夫をして取り組むなど、家庭学習の定着と確立を図ろうとしている。

○生徒指導について

- ・SNSの使い方については管理しきれない現状であるが、継続的に専門講師の防犯講話などを開催し、身を守る意識を強めていくことが大事である。また、児童生徒自身も加害者にならないよう情報リテラシーを高めることも大切である。

○小中連携について

- ・中学校の取組を小学校に紹介してはどうかということだが、小中連携の意味からも、ぜひ積極的に進めてほしい。中一ギャップなどといわれる現象がどの程度感じられるのかは不明だが、入学した生徒が抵抗なく中学校での学習活動に取り組めるように進めてほしい。
- ・近隣の小中学校で「五校会」を結成し、児童生徒を統一的に見守っている。
- ・小中学校の連携がなされていて、それが児童の見守りや指導に活かされている。児童にとって小さな変化にも気づいてもらえる大人の存在があることは成長を促進させると同時に、保護者の安心にもつながる。

令和 7 年度 全国学力・学習状況調査

甲府市における調査結果のポイント

..... も く じ

1	調査の本市の概要		P 1
2	教科に関する調査の本市の結果について		P 2
3	質問調査の本市の結果について		P 2 4
4	資料 1		P 4 0
5	資料 2		P 4 6

報告：第 1 2 号

1 調査の本市の概要

(1) 実施日 令和 7 年 4 月 1 7 日 (木)

(2) 調査内容

○実施学年 小学校第 6 学年、中学校第 3 学年

○調査内容

〔教科に関する調査〕

小学校・・・国語、算数、理科

中学校・・・国語、数学、理科 (IRT)

※IRT (Item Response Theory) とは、異なる問題で構成される試験・調査の結果を、同一尺度で比較可能にする統計理論。PISA、TIMSS といった国際的学力調査や、TOEIC、TOEFL などの英語資格・検定試験で採用されている。

◇出題内容

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

〔生活習慣や学習環境等に関する質問調査〕

◇児童・生徒質問調査 (小・中学校)

- ・調査する学年の児童生徒を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

◇学校質問調査 (小・中学校)

- ・学校を対象とした、指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(3) 参加状況

校 種	参加学校数	参加学年・参加人数
小学校	2 4 校	6 年生・1 1 2 7 人
中学校	1 1 校	3 年生・1 0 7 4 人

※千代田小学校は 6 年生の在籍がないため参加せず

報告：第 1 2 号

2 教科に関する調査の本市の結果について

(1) 全体の結果 【平均正答率で見た甲府市の状況：全国・山梨県との比較】

		小学校(6年生)			中学校(3年生)		
		国語	算数	理科	国語	数学	理科
全 国		66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	
山梨県		66	56	57	53	45	
甲府市	国との比較	○	○	○	○	△	△
	県との比較	○	○	○	○	○	△

※表の見方：○は同じかあるいは上回っている、△は下回っている

※中学校理科は、IRT による実施のため、%ポイントでの算出不可

◇全体の概要

○教科に関する調査の平均正答率は、小学校はすべての教科(国語・算数・理科)において全国を上回った。中学校は国語以外の教科(数学・理科)において全国を下回った。

〔小学校〕

- ・すべての教科(国語・算数・理科)において、全国平均正答率及び県平均正答率を上回っている。

〔中学校〕

- ・国語においては、全国平均正答率及び県平均正答率を上回っている。数学においては、全国平均正答率を下回っているが、県平均正答率との比較では、上回っている。理科においては、IRT による検査のため、他教科と算出方法は違うが、全国平均正答率及び県平均正答率を下回っている。

報告：第 1 2 号

(2) 各教科の結果

■ 小学校国語

【全国の平均正答率より 3 ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1 三 (2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部イのように発言した理由として適切なものを選択する	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	5・6 年 話すこと・聞くこと エ	R2 1 三 R5 3 二
2 一	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる	3・4 年 書くこと イ	
2 四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す（あつ日）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 年 言葉の特徴や使い方に 関する事項 エ	

【全国の平均正答率より 3 ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
3 三 (1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄 A に当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	5・6 年 読むこと ウ	R3 2 三 R5 2 二

【正答率が 4 0 %に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
3 三 (1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄 A に当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	5・6 年 読むこと ウ	R3 2 三 R5 2 二

報告：第12号

【本市の傾向・課題】

- 平均正答率については、全国及び県を上回る結果だった。
- 無解答率については、全国より無解答率の高い設問数が昨年度と比較し減少した。(1/14問)
- 「読むこと」(思考力、判断力、表現力等)に関する設問の正答率が低かった。
 - ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる設問では、県の正答率は上回ったが全国を下回り、低い正答率だった。
 - ・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる設問では、全国・県平均を上回ってはいるが、低い正答率だった。
- 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる」ことについては、「このみ」を書く設問では、全国・県平均を下回り、依然として本市の課題になっている。また、「(あつい)日」を書く設問は、全国・県平均を上回った。
- 全国・県平均を上回っているものの「話すこと・聞くこと」「読むこと」(思考力、判断力、表現力等)に関する設問の正答率が低い傾向であった。
 - ・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみること(「話すこと・聞くこと」)
 - ・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみること(「読むこと」)
 - ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみること(「読むこと」)

【改善のための方策】

○必要な情報を得るために、読む目的を明確にする指導の充実

- ・課題解決のために必要な情報は、その目的に応じて変わるため、日ごろから、文章や図表などから必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりし、目的に応じて結びつけていく指導を、繰り返し行っていくことが重要である。
- ・文章や図表など、複数の資料の中から、それらの関係性や必要な情報を抽出していくために、前後の文章やキーワードとなる言葉に注目し、それらの文章や図表の関連性に気づいたり、結びつけたりしていくことが大切である。

○文章の要旨を把握するために、書き手の挙げる理由や事例に着目する指導の充実

- ・文章全体の構成を捉えて要旨を把握するためには、叙述を基に、書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているのかに着目することが重要である。
- ・複数の資料の関連性がつかめず、文章全体から要旨を把握することが難しい児童には、資料を一つずつ確認していくことを促すなど、教師が個別に指導することが必要である。

○「話すこと・聞くこと」「読むこと」(思考力、判断力、表現力等)を高める指導の充実

- ・日ごろから、読書活動やスピーチ活動等を継続的に取り入れたり、学級内で協働的に学ぶ機会を意図的に設けたりすることで、自分以外の他者の考えに触れ、それについて考える機会を多く持たせていくことが重要である。

報告：第 1 2 号

■ 小学校算数

【全国平均正答率より 3 ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2 (3)	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	角の大きさについて理解しているかどうかをみる	4 年 図形	
2 (4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	5 年 図形	H20A 8 (1)(2) H21A 5 (2) H24B 3 (2) H30B 1 (1)
3 (3)	数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、1 の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	3 年 数と計算	H19A 3 (1)(2) H22A 2 (2) H22A 3 H26A 3

【全国平均正答率より 3 ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
4 (3)	はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む	はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる	3 年 測定	H23A 3 (1) H24B 4 (3)
4 (4)	10% 増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ	「10% の増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる	5 年 変化と関係	H22B 5 (1) H26A 2 (1) H27B 2 (2) H28A 9 (2) H29B 5 (1)

【正答率が 40% に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1 (2)	都道府県 A のブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用い	3 年・5 年 データの活用	H20B 2 (3) H30B 3 (2)

報告：第 1 2 号

		て記述できるかどうかをみる		
3 (2)	3/4+2/3 について、共通する単位分数と、3/4 と 2/3 が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	5 年 数と計算	R2 3 (3) R2 3 (4)

【本市の傾向・課題】

- 本市の結果の傾向は、全国及び県の平均正答率とほぼ同等の結果となった。無解答率についても若干ではあるが全国及び県と比較すると低く、改善傾向にある。
- 「数と計算」領域では、数直線上に示された数を単位分数に着目して、その幾つ分とみて分数で解答する問題が全国及び県の平均正答率を上回る結果となった。しかし、3/4 と 2/3 に共通する単位分数が 1/12 であることや、3/4 や 2/3 が 1/12 の幾つ分であるかを答える問題については、全国及び県同様に正答率が低かった。
- 「図形」領域では、角をつくる二つの辺をのばしても辺の開き具合は同じであることの理解や五角形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述する問題については、全国及び県を上回る結果となった。
- 「測定」領域では、はかりの最小目盛りに着目して目盛りを読む問題で、はかりの最小目盛りを正確に捉えられず解答している児童が多く、最小目盛りの大きさを正確に捉え、はかりの針が指している目盛りを読むことに課題が残った。
- 「変化と関係」領域では、「10%増量」の意味を解釈して「増量後の量」が「増量前の量」の何倍かを求める問題で、「10%増量」について百分率で表された 10%を 0.1 と捉えることはできているが、「増量後の量」が 110%になることが捉えられず、全国及び県と同様、正答率が低かった。
- 「データの活用」の領域では、全体的には全国及び県の平均正答率を上回ってはいるが、適切なグラフを選び、データの増減を判断し、そのわけを書く問題の正答率が低く、課題が残った。

報告：第12号

【改善のための方策】

○「数と計算」に関する指導の充実

- ・分数の加法においては、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して、共通する単位分数をもとに、整数の加法に帰着できるような指導が大切である。「〇〇をもとにすると」という考え方は、分数に限らず整数や小数、割合の問題場面でも大切にしなければならない考え方である。単元間や学年間のつながりを意識した指導が重要である。
- ・分数の意味や表し方を理解できるようにするために、数直線上に表された分数については、1の目盛りに着目して、単位分数の幾つ分として捉える指導が大切である。分数の指導は、その意味についても各学年で扱う内容により異なるため、体験的な活動を取り入れたり、意味理解のための図や数直線を活用したり、学年に応じた丁寧な指導が大切である。

○「変化と関係」に関する指導の充実

- ・日常生活において、ある数量を調べようとするときに、それと関係のある数量を見出し、数量間にある関係を把握して、問題解決に活用していく態度を日頃から育てることが大切である。
- ・また、「30%増量」や「3割引」といった割合の表現が用いられている場面では、それらの表現の意味を解釈し、同じ意味を表す別の表現方法で表すなどの指導も大切にしたい。

○「データの活用」に関する指導の充実

- ・日常の事象について、目的に応じて必要なデータを収集し、データの特徴や傾向を捉え考察するなど、統計的に問題を解決していく指導が重要である。
- ・日常の事象について表された棒グラフの項目間の関係を読み取ったり、目的に応じて適切なグラフを選択して考察したり、導いた結論の根拠となる関係を明らかにしながら解決していく指導が大切である。

○「図形」に関する指導の充実

- ・観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素とその関係に着目し、図形の性質や構成の仕方、計量について筋道を立てて考察することが重要である。例えば、図形の構成要素に着目した構成の仕方を考えたり、図形の性質を基に弁別したりする活動を通して、図形の見方や感覚を育てることが大切である。

○「測定」に関する指導の充実

- ・日頃から身の回りのものの大きさについて、必要な計器を選択して実測したり、単位を用いて表現したりすることを取り入れた指導が大切である。

報告：第12号

■ 小学校理科

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1(1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	4年 B 生命・地球	H27 1 (1) H24 3 (4)
1(2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる	4年 B 生命・地球	H27 1 (3) H27 3 (6) H30 2 (3) R4 3 (4)
3(1)	ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる	5年 B 生命・地球	H24 2 (4)
4(1)	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる	4年 A 物質・エネルギー	/
4(2) イウ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	4年 A 物質・エネルギー B 生命・地球	

報告：第 1 2 号

		かをみる		
4 (2) エオ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	4 年 A 物質・エネルギー B 生命・地球	

【全国の平均正答率より 3 ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2 (4)	乾電池 2 個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる	4 年 A 物質・エネルギー	H27 1 (5)イ

【正答率が 4 0 %に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
2 (1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる	3 年 A 物質・エネルギー	
3 (4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気づきを基に、見いだした問題について書く	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができるかどうかをみる	4 年・5 年 A 物質・エネルギー	R4 1 (5) R2 2 (4)

報告：第12号

【本市の傾向・課題】

- 全国及び県の平均正答率より高い結果である。無解答率については、全国及び県よりも低い設問が多く、粘り強く解答している。
- 学習指導要領の「粒子」を柱とする区分、「地球」を柱とする区分については、全国及び県よりも高い平均正答率である。
- 短答式の正答率が高く、知識の定着が見られる。また思考、判断、表現等についても、全国及び県の平均正答率より高い結果である。
- 記述式の正答率は全国及び県の平均正答率よりも高いが、他の問題形式に比べて低い。
- 差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみることにについて課題がある。

【改善のための方策】

○記述力を高める言語活動

- ・「気づき→課題設定→表現」といった流れを重視する中で、他者との違いを認識する経験を増やし、また、気づきを課題設定したり、言葉で表現したりすることができるよう、記述例の提示やモデル文の共有等を行い、思考の言語化を補助することが大切である。
- ・グラフや図表を活用し、視覚情報と記述を結びつけたり、実際の事物・現象と関連付けて説明し合ったりするような話し合いの取組を行ったうえで記述することが大切である。

○問題発見・課題設定を促す学習構造

- ・他者の気づきと自らの気づきを比較する中で、自分の課題を明確化することが大切である。
- ・児童が自ら問いを立て、それを追究するプロセスを重視することが大切である。
- ・グループ活動を通して、他者との気づきの違いに着目させたり、「なぜ?」「どうして?」と問う力を育てたりすることが大切である。

○実験と観察の確かな体験

- ・器具の操作や現象観察の実体験を重視し、事実について確かな知識の習得を図ることが大切である。
- ・実験や観察で確かめたうえで、自分や他者の気づきを比較したり、差異点や共通点に基づいて話し合ったりするなかで、児童自らが考察を言語化できるよう支援することが大切である。

報告：第12号

■ 中学校国語

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1 三	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる	1年 イ B書くこと	

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
3 三	「しきりと」の意味として適切なものを選択する	事象や行為を表す語句について理解しているかどうかをみる	1年 ウ 言葉の特徴や使い方に 関する事項	

【正答率が40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1 一	変換した漢字として適切なものを選択する（かいしん）	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる	2年 ウ 言葉の特徴や使い方に 関する事項	
1 四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる	1年 ウ B書くこと	R4 2 三 R5 3 四
2 一	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	資料や機器を用いた話し方の工夫を捉えることができるかどうかをみる	2年 ウ A話すこと・ 聞くこと	
2 四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	2年 ウ A話すこと・ 聞くこと	

報告：第12号

3 四	「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそうように考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる	1年 エ C読むこと	R4 2 二 R5 4 三
4 二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見つけて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	1年 エ B書くこと	R3 2 一 R5 3 一

【本市の傾向・課題】

- 本市の平均正答率は、全国とほぼ同等で県を若干上回った。各領域では「話すこと・聞くこと」、「書くこと」は全国を上回ったが、「読むこと」は全国を下回った。記述問題の正答率は全国とほぼ同等であった。
- 「しきりと」の意味として適切なものを選択する設問（3の三）については、全国を下回っており、無解答率についても全国を上回っている。
- 漢字「会心（かいしん）」を書く設問（1の一）及び、手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見つけて修正する設問「専門→専門」（4の一）はいずれも全国を下回っている。特に（4の一）の無解答率は、全国を上回っている。「会」は小学校2年、「心」は小学校2年の配当漢字である。「専」は小学校6年、「門」は小学校2年の配当漢字である。
- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる設問（1の四）及び、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる設問（3の四）といった、根拠を明確にして書くことについて課題が見られた。（3の四）の設問の無解答率は、全国を上回っている。
- 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる設問（2の一）や、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて文章を整えることができるかどうかをみる設問（4の二）といった、表現の工夫や文章を整える記述式の設問については平均正答率が低く、課題が見られた。（4の二）の設問の無解答率は、全国を上回っている。

【改善のための方策】

【知識及び技能】言葉の特徴や使い方に関する事項（1の一）（3の三）（4の一）関係

○文脈に即して意味に注意しながら漢字を正しく使うようにする指導の充実

- ・漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を正しく使うように指導することが大切である。漢字の書きについては、小学校学習指導要領第2章第2節国語科の内容に示されている学年別漢字配当表の漢字1,026字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れるよう指導することが求められている。その際には、各学年の語彙の指導事項の内容と関連付け、音訓を意識し、同音異義語などの意味の違いに注意するなどして、漢字を正しく使うことができるよう指導することが大切である。

報告：第12号

○語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し語感を磨き語彙を豊かにする指導の充実

- ・事象や行為、心情を表す語句について理解するためには、動詞や形容詞、形容動詞、名詞、副詞など様々な語句について取り上げ、語句の量を増やすとともに、話や文章の中でどのように使用されているかについて考えることが重要である。例えば、本などから見付けた事象や行為、心情を表す語句を取り上げ、辞書的な意味を踏まえて、文脈上の意味を考える学習活動が考えられる。その際、他の語句と比較しながらその語句が文章の中で果たしている役割を考えるなどして、語句の意味や使い方について理解を深めていく指導が大切である。

【思考力、判断力、表現力等】

話すこと・聞くこと (2の一・四)関係

○資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する指導の充実

- ・資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫するには、伝えたい内容が適切に伝わるよう効果的に資料や機器を活用することが重要である。その際、話の内容を踏まえ、話の要点や根拠が明らかになっているか、説明が不足していないか、中心となる事柄が強調されているかなど、自分の考えが聞き手に分かりやすく伝わっているかを確認し、資料の中身や提示の仕方、機器の使い方について検討することが大切である。

書くこと (1の四)(4の二)関係

○自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く指導の充実

- ・自分の考えが伝わる文章にするためには、意見とそれを支える根拠を明確にして書くことが重要である。根拠を明確にするためには、まず、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめることが必要である。その際に、接続する語句や指示する語句を用いるなどして、伝えたい事柄とその根拠とを適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くよう指導することが大切である。
- 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える指導の充実
 - ・書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめ、文章を整えることができるように指導することが大切である。叙述の仕方などを確かめるとは、文や段落の長さ、文や段落の役割、段落の順序、語順などが適切であるかなどをみることである。その際、第1学年〔知識及び技能〕の(1)エに示された「指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること」、第2学年〔知識及び技能〕の(1)「カ 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うこと」などとの関連を図り、学習した「知識及び技能」を生かして文章を整えるよう指導することが有効である。

読むこと (3の四)関係

○文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える指導の充実

- ・文学的な文章の構成や展開について考えるためには、作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握することが求められる。その際、文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるのかなど、自分なりの意味付けをすることができるよう指導することが重要である。

報告：第 1 2 号

■ 中学校数学

【全国の平均正答率より 3 ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
5	ある学級の生徒 40 人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20 m 以上 25 m 未満の階級の相対度数を求める	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる	1 年 データの活用	H25A14(2) H26A13(1) H29A14(2)

【全国の平均正答率より 3 ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1	1 から 9 までの数の中から素数をすべて選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかをみる	1 年 数と式	
2	果汁 40 % の飲み物 a mL に含まれる果汁の量を、a を用いた式で表す	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	1 年 数と式	H25A2(3) H27A2(2) H28A2(1) H29A2(1)
3	$\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の大きさが 50° のときの頂点 A における外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる	2 年 図形	H25A6(2)
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、 x の増加量が 2 のときの y の増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる	2 年 関数	H28A9(2) H30A11(1)
6 (3)	連続する三つの 3 の倍数の和が、9 の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2 年 数と式	H19B2(2) H22B2(2) H23B2(3) H24B2(1) H27B2(2) H319(2) R46(2)
7 (1)	A の手元のカードが 3 枚とも「グー」、B の手元のカードが 3 枚とも「チョキ」でじ	必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうか	2 年 データの活用	

報告：第 1 2 号

	じゃんけんカードゲームの 1 回目を行うとき、1 回目に A が勝つ確率を書く	をみる		
8 (1)	A 駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取れば C 駅と D 駅間の走行距離が分かるかを選ぶ	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	2 年 関数	
8 (2)	A 駅から 60.0 km 地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	2 年 関数	H25B3(2) H29B3(2) R37(2) R48(2)

【正答率が 40%に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1	1 から 9 までの数の中から素数をすべて選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかをみる	1 年 数と式	
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、 x の増加量が 2 のときの y の増加量を求める	一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる	2 年 関数	H28A9(2) H30A11(1)
6 (2)	$3n$ と $3n + 3$ の和を $2(3n + 1) + 1$ と表した式から、連続する二つの 3 の倍数の和がどんな数であることを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2 年 数と式	
6 (3)	連続する三つの 3 の倍数の和が、9 の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2 年 数と式	H19B2(2) H22B2(2) H23B2(3) H24B2(1) H27B2(2) H319(2) R46(2)

報告：第 1 2 号

8 (2)	A 駅から 60.0 km 地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	2 年 関数	H25B ³ (2) H29B ³ (2) R3 ⁷ (2) R4 ⁸ (2)
9 (2)	平行四辺形 ABCD の辺 CB、AD を延長した直線上に $BE = DF$ となる点 E、F をとっても、四角形 AECF は平行四辺形となることの証明を完成する	統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる	2 年 図形	H30B ⁴ (2)
9 (3)	平行四辺形 ABCD の辺 BC、CA を延長した直線上に $BE = DF$ となる点 E、F を取り、辺 AB と線分 FC の交点を G、辺 DC と線分 AE の交点を H としたとき、四角形 AGCH が平行四辺形になることを証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	2 年 図形	

【本市の傾向・課題】

- 全体および各領域の正答率は、県とはほぼ同等であったが、全国を下回る結果となった。「数と式」では、1 から 9 までの数の中から素数をすべて選ぶ設問、式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する設問で、いずれも正答率は低かった。素数についての理解や、式が表す意味の読み取りに課題があると思われる。「図形」では、平行四辺形になるための条件を基にした図形の証明とその発展に関する設問で正答率が低く、証明に対する苦手意識が顕著に表れていた。「関数」では、事象に即してグラフから必要な情報を読み取る設問の正答率は高かったが、変化の割合を基に x の増加量に対する y の増加量を求める設問の正答率が低く、設問によって正答率に大きな差が生じた。「データの活用」では、相対度数を求める設問の正答率は全国・県を上回った一方、必ず起こる事柄の確率を求める設問の正答率は全国・県を下回り、確率についてより確かな理解が必要であることが示された。
- 記述式の設問の無解答率は全国・県と同様に高かったが、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する設問の無解答率が特に高かった。
- 全 15 問のうち 7 問の正答率が、40% を下回る結果となり、そのうちの 4 問が記述式の設問であった。また、知識・技能を問う 9 問のうち、7 問が全国を下回る結果となった。解決の方法などを数学的に表現することに加え、基礎的・基本的な知識・技能についても課題があるといえる。

【改善のための方策】

○基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る指導の充実

- ・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、学習した内容の意味の理解や実生活との関連を大切にしながら、生徒の実態に即したきめ細かな指導を繰り返し行う。
- ・整数の性質について理解を深める場面において、整数を様々な視点で分類することによって、自然数や素数などの意味を理解できるように指導することが大切である。
- ・一次関数について、表、式、グラフを関連付けて x の値の変化に伴って y の値がどのように変化するかを調べる活動を通して、変化の割合の意味や一次関数の変化の割合が一定であることを理解したり、 x の増加量に対する y の増加量を求めたりすることができるように指導することが大切である。

○問題解決の方法を数学的に説明する学習指導の充実

- ・与えられた方法で問題を解決するだけでなく、問題解決の方法について具体的に説明する場面を取り入れることが考えられる。その際、グラフや式などの「用いるもの」と「その用い方」を明確にして説明をさせることが大切である。

○ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明したり、統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について証明を評価・改善したりする学習指導の充実

- ・仮定や仮定から分かる事柄、結論を導くために必要な事柄を明らかにするなどして証明の方針を立て、その方針を基に推論の過程を数学的に表現できるようにすることが大切である。
- ・証明したことを基に、条件を変えた場合の証明について考察する場面を設定し、条件を変えても変わらない関係や、条件を変えると変わる関係を見だし、もとの証明を評価・改善することにより条件を変えた場合の証明ができるように指導することが大切である。

報告：第12号

■ 中学校理科

【全国の平均正答率より3ポイント以上高いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
5 (1)	加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する	加熱を伴う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いているかどうかをみる	1年 物質のすがた	
6 (2)	牧野富太郎の「サユリ」のスケッチから、サユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する	スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の葉の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる	2年 植物の体のつくりと働き	R4 4 (1) R4 4 (2)
7 (1)	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈することができるかどうかをみる	2年 動物の体のつくりと働き	

【全国の平均正答率より3ポイント以上低いもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1 (1)	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や早く水が温まる装置を選択する	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	2年 電流	
1 (2)	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を設定できるかどうかをみる	1年 物質のすがた	H27 7 (3)
1 (5)	塩素の元素記号を記述する	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	2年 物質の成り立ち	H27 1 (1) H30 8 (1)

報告：第12号

		かをみる		
3 (2)	抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する	身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	2年 電流	
4 (1)	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大小を判断し、小さい順に並べる	ガス警報器の設置場所が異なる理由を考える学習場面において、実験の様子と、密度に関する知識及び技能を関連付けて、それぞれの気体の密度の大小関係を分析して解釈できるかどうかをみる	1年 物質のすがた	
4 (2)	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	1年 物質のすがた	
5 (2)	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる	2年 化学変化	H30 4 (3) R4 3 (1)
8 (2)	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで表す	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる	1年 地層の重なりと過去の様子	H24 3 (2) R4 6 (3)

報告：第 1 2 号

【正答率が 40 %に満たないもの】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	該当学年	過去問題
1 (3)	地層 1 から地層 4 までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する	露頭のどの位置から水が染み出るかを観察する場面において、小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できるかどうかをみる	1 年 身近な地形や地層、岩石の観察	小・理科 R7 1 (2)
1 (4)	生物 1 から生物 4 までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	2 年 動物の体のつくりと働き	
1 (5)	塩素の元素記号を記述する	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	2 年 物質の成り立ち	H27 1 (1) H30 8 (1)
2 (1)	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる	1 年 光と音	H27 6 (2) R4 5 (3) R4 7 (2)
3 (1)	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる	2 年 電流	H30 6 (2)
5 (2)	実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きて	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化	2 年 化学変化	H30 4 (3) R4 3 (1)

報告：第12号

	いるかを判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す	学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる		
8 (2)	Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようなになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで表す	大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる	1年 地層の重なりと過去の様子	H24 3 (2) R4 6 (3)
9 (1)	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解釈できるかどうかをみる	2年 気象観測	R4 8 (2)

【本市の傾向・課題】

- 公開されている設問の各領域の正答率は、全国及び県を下回る設問が多い結果となった。特に全国平均より3ポイント以上正答率が低い設問が8つあった。広範な領域において、全国平均に到達していない知識や技能、あるいは思考力に課題が見られた。無解答率については、全国及び県と同程度もしくは数値が低い設問が多く、粘り強く解答していた。
- 正答率が40%に満たない設問の多くは、単なる知識の有無だけでなく、資料の分析、考察、予測、記述による表現といった「思考力、判断力、表現力等」を問うものであった。特に、実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明する設問【2 (1)】や時間的・空間的な見方を働かせ、調査結果を関連付けて表現する設問【8 (2)】のように、科学的な探究の過程や概念を関連付けて応用することに課題があった。
- 実験における実験器具の操作等に関する技能についての設問【5 (1)】では、全国平均を上回る高い正答率を達成しており、特定の知識や基本的な概念の理解が優れている領域もあった。

報告：第 1 2 号

【 改善のための方策 】

○基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る学習指導の充実

- ・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、基礎的な概念や用語を実生活と関連させながら理解できるよう指導をすることが大切である。

○「思考力、判断力。表現力等」を育成する学習指導の充実

- ・日常生活や自然の事物・事象から生徒自ら課題を見だし、仮説を立て、観察・実験を計画し、結果を分析・解釈し、結論を導き出すという科学的探究の過程を行うことが大切である。
- ・生徒が自らの学習過程や思考の変化、新たな疑問点、身近な生活との関連などに具体的かつ多角的に着目し、自らの言葉で表現できるように指導することが大切である。
- ・与えられた情報（図、実験結果、スケッチなど）を正確に読み取り、科学的な知識と結びつけて考察できるよう指導することが大切である。

報告：第 1 2 号

(3) 無解答率について

<無解答率が全国よりも高い設問の数>

※全国よりも無解答率が高い設問の数／全設問数

全国より無解答率が高かった設問数					
小学校	R 6 年度	国語	算数	R 4 年度	理科
		5 問／14 問中	3 問／16 問中		2 問／17 問中
	R 7 年度	国語	算数	理科	
		1 問／14 問中	0 問／16 問中	0 問／17 問中	
中学校	R 6 年度	国語	数学	R 4 年度	理科
		7 問／15 問中	10 問／16 問中		1 問／21 問中
	R 7 年度	国語	数学	理科	
		6 問／14 問中	11 問／15 問中	7 問／22 問中	

【本市の傾向と課題】

○昨年度との比較の視点から

- ・中学校数学で無解答率が全国平均を上回った設問数が昨年度より増加し 7 3 % となり、全教科の中でも最も多かった。
- ・小学校では、無解答率が全国平均を上回った設問数が昨年度より大幅に減少した。
- ・理科は、3 年前との比較になるが、中学校では、無解答率が全国平均を上回った設問数が 3 年前は 5 % であったが、今年度は 3 2 % と大幅に増加した。

○全国との比較の視点から

- ・小学校は、国語、算数、理科合わせて無解答率が全国平均を上回った設問は 1 問あったが、全国と 1. 0 ポイント未満での差であった。
- ・中学校は、国語、数学、理科合せて無解答率が全国平均を上回った設問は 2 4 問あったが、そのうち 8 問で全国と 1. 0 ポイント未満での差であった。最大で 2. 6 ポイント、無解答率が全国平均を上回っている。

○無解答率そのものの視点から

- ・小学校では、国語において無解答率が全国平均を上回った設問が 1 問であり、短答式であった。「文中に出てくるひらがなを、漢字を使って書き直す」問題であった。
- ・中学校では、無解答率が 1 0 % を超えている設問は、国語においては 3 問、数学においては 4 問、理科においては 2 問であった。国語においては、2 問が記述式であり、自分がなぜそう考えたかの理由を記述する問題であった。数学においては、4 問全て記述式の問題で、倍数の和について説明する問題やグラフを用いて説明する問題、平行四辺形について証明する問題などであった。理科においては、元素記号を記述する問題、他者の考えから自分の振り返りを記述する問題などであった。

【改善のための方策】

- ・主体的・対話的で深い学びの授業改善の視点に立ち、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書いたり、説明したり、発表したりすること、また友達と意見を交流し、自分の考えを深めていくような活動を設定していくことが大切である。
- ・漢字や元素記号の記述など、基礎的な知識や理解を問う問題に対応するために、継続的に取り組めるような活動を設定していくことが大切である。

報告：第 1 2 号

3 質問調査の本市の結果について

(1) 児童生徒質問調査の特徴

① 小学校【児童質問調査】

■【全国の平均より、肯定的回答が3ポイント以上高いもの】

No.	質問項目	全国との差
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	6.7
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	3.2
6	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	3.9
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	3.1
13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	5.9
16	分からないことやよくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	3.3
21	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	3.3
24	読書は好きですか	7.5
25	これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか	3.6
27	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	5.2
28	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	15.3
29-1	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができますか	3.1
29-3	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか	4.4
29-4	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか	7.3
30-1	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（1）自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	6.8
30-2	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（2）分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	3.9
30-3	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（3）楽しみながら学習を進めることができる	4.6
30-4	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（4）画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	4.4
30-5	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（5）自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	5.6
30-6	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（6）友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	5.1
30-7	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（7）友達と協力しながら学習を進めることができる	5.4
31	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	9.2
33	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	3.2
34	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	4.7
35	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	3.9
36	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	5.1
37	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思っていますか	4.4

報告：第12号

38	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	4.7
40	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	7.4
41	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	7.2
42	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	5.6
48	国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか	5.5
49	国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれますか	6.3
50	国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか	3.7
51	国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか	4.1
57	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	4
58	算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	3.4
63	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	3.5
66	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか	4.4
70	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	3.3
71	健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか	4

■【全国の平均より、肯定的回答が3ポイント以上低いもの】

No.	質問項目	全国との差
17	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間（2時間以上）、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	-3.5
19	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間（3時間以上）、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	-4.2
国2	解答時間は十分でしたか（国語）	-5.9
算2	解答時間は十分でしたか（算数）	-3

②中学校【生徒質問調査】

■【全国の平均より、肯定的回答が3ポイント以上高いもの】

No.	質問項目	全国との差
7	将来の夢や目標を持っていますか	3.3
24	読書は好きですか	4.3
27	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	3.0
28	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	24.4
29-1	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができますか	3.8
29-3	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか	4.8
29-4	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか	6.7
31	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	10.0

報告：第 1 2 号

40	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	3.9
41	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	6.1
42	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	6.1
60	理科の勉強は得意ですか	6.5
65	理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できていますか	4.1
67	自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか	3.5
68	理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか	3.8
69	理科の授業では、自分の予想（仮説）をもとに観察や実験の計画を立てていますか	5.6
70	理科の授業で、課題について観察や実験をして調べていく中で、自分や友達の学びが深まったか、あるいは、新たに調べたいことが見つかったか、振り返っていますか	5.7

■【全国の平均より、肯定的回答が3ポイント以上低いもの】

No.	質問項目	全国との差
52	数学の勉強は得意ですか	-8.4
53	数学の勉強は好きですか	-9.8
54	数学の授業の内容はよく分かりますか	-10.9
57	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	-5.9
59	文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、書かれていることを理解することができますか	-3.9
数2	解答時間は十分でしたか（数学）	-3.5

③児童生徒質問調査について

今年度、児童生徒質問調査の設問数は、小学校 80、中学校 72 であった（昨年度は、小学校 73、中学校 75）。全国平均と比べて3ポイント以上、上回る設問が、小学校では 41（昨年度 19）、中学校で 17（昨年度 37）あった。反対に3ポイント以上、下回る設問が、小学校では 2（昨年度 6）、中学校で 5（昨年度 8）あった。小学校 9 割、中学校では 7 割以上の設問で、肯定的な回答が全国平均を上回っている。

<小学校>

- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」について、全国平均を上回っており、規則正しい生活を送っていることがうかがえる。
- 自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について、肯定的な回答が9割前後となり、全国平均も1～3.9ポイント上回ったことから、自己有用感を感じている児童が多いことが分かる。また、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」についても、肯定的な回答をした児童が9割以上おり、全国平均を2.5ポイント上回ったことから、幸福感を感じている児童が多いこともうかがえる。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」について、全国平均を1.2ポイント、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」は3.1ポイント上回っている。子ども達が安心して生活できるような環境が徐々に構築されてきている様子が見えてくる。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」について、全国平均を5.9ポイント、「分からないことやよくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫するこ

報告：第12号

とはできていますか」について、3.3ポイント上回ったことから、学びの過程において、多様な考えに触れたり、新たな考えを構築したりすることに関心を持っている様子が見えてくる。

- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」では、2時間以上学習している割合が全国平均を3.5ポイント下回り、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」では、2時間以上学習している割合は全国平均を4.2ポイント下回った。このことから、家庭学習のあり方や時間の確保について、今後検討していく必要がある。
- 「5年生までに受けた授業での、PC・タブレットなどのICT機器の使用頻度」また「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することのよさ」に関する設問については、すべての項目で2.7～7.3ポイント全国平均を大きく上回った。このことから、甲府市内におけるICTを活用した授業が継続的に行われてきたことにより、ICT機器を学習ツールとして活用することが十分に浸透してきていることがわかる。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」について、全国平均を大きく上回った。学級の課題について話し合われたことを、学級生活をよりよくするために意識して取り組もうとする姿勢が見えてくる。
- 「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか」「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」について、全国平均を上回っていることから、先生方が日頃から甲府スタイルの授業を意識した授業実践を行い、それにより、児童の「個別最適な学び」と「協働的な学び」が深まりつつあることが見えてくる。
- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」について、全国平均を上回っている。先生が児童の様子を把握し、適切な指導を粘り強く行っていることが見えてくる。
- 「国語の勉強は好きですか」など、国語の学習についての設問は全ての項目で肯定的な回答が全国平均を上回った。特に「国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか」「国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれますか」については、全国平均を5ポイント以上上回っている。
- 「算数の勉強は好きですか」についての回答が、全国平均を1.9ポイント下回った。しかし、「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」という項目では全国平均を上回っている。算数の学習において、先生方が「個別最適な学び」「協働的な学び」の力

報告：第12号

が児童に培われるよう、授業を組み立てている様子がうかがえる。

- 「理科の勉強は好きですか」についての回答が、全国平均を1.9ポイント下回った。しかし、「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりしていますか」「理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか」という項目では全国平均を上回っている。理科の学習に関して、児童がその必要性を感じてはいるが、興味・関心に結びついていないことがうかがえる。
- 「解答時間は十分でしたか」については、国語も算数も肯定的な回答が全国平均を下回った。特に国語では5.9ポイントと大きく下回った。問題文を時間内に的確に理解する「読解力」が課題である。「読書は好きですか」「新聞を読んでいますか」は全国平均を上回っているが、本の所有数に関する設問について全国平均を下回っている。活字に触れる機会はあるが、発達段階に応じた文章を読むという機会が減っていることと関連していることがうかがえる。

<中学校>

- 「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝て（起きて）いますか」について、肯定的な回答をした生徒が8割程度おり、また全国平均を上回っており、規則正しく健康的な生活をしようと心がけていることがうかがえる。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」については、肯定的な回答が8割を超え、全国平均を1.7ポイント上回った。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」についても、肯定的な回答が9割を超え、全国平均を1.9ポイント上回った。先生など他者に認められることにより、自己肯定感を高めている生徒が多いことが分かる。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」では、2時間以上で比較した場合全国平均を1.4ポイント下回ったが、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」では、2時間以上で比較した場合全国平均を0.3ポイント上回った。平日における家庭学習の時間の確保について課題がみられる。
- 「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」については、「週3回以上」で比較したとき、全国平均を13.8ポイントと大きく上回った。特に「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますと思いますか」では6.7ポイント、あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使って調べる自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる）では4.8ポイント上回った。市内においてICT機器が当たり前のツールとして浸透してきていることが分かる。
- 「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」については、肯定的な回答が全国平均を10ポイントと大きく上回った。各教科の授業や総合的な学習の時間での探究的な学習活動の積み重ねが、論理的な表現力の育成につながっていると考えられる。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が

報告：第12号

努力すべきことを決めて取り組んでいますか」については、肯定的な回答がどちらも全国平均を6.1ポイント上回った。学級活動において、話し合い活動を丁寧に行っていることで、生徒達に深く考えさせていることがうかがえる。

○国語の学習に関する設問では、「国語の勉強は好きですか」について、肯定的な回答が全国平均を若干下回ったものの、それ以外の項目では肯定的な回答が全国平均を上回った。「国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめていますか」「国語の授業で、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書いていますか」など、言語活動に関する設問において肯定的な回答が2ポイント以上、上回っており、国語における言語活動が、その他の場面における話し合い活動や表現活動にもつながっていることが分かる。

○数学の学習に関する設問については、全ての設問において肯定的な回答が全国平均を下回った。「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」については、肯定的な回答が全国平均を6.6ポイントと大きく下回り、また、「数学の勉強は大切だと思いますか」についても3.8ポイント下回ったことから、数学の学習の意義を十分に感じていない生徒が多いことがうかがえる。「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」「数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」についても、肯定的な回答が全国平均を下回っていることから、数学に苦手意識を持っており、粘り強く取り組むことを諦めてしまっている生徒が多いことが考えられる。「数学の授業の内容はよく分かりますか」についても、肯定的な回答が全国平均を6.6ポイント下回っており、数学に興味・関心を持たせるような工夫が求められている。

○理科の学習については、「理科の勉強は好きですか」について、肯定的な回答が5.3ポイント全国平均を上回った。「理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか」についても、肯定的な回答が全国平均を3.0ポイント上回っており、理科に関する事象への問題を見いだしながら、予想をもとに観察や実験を行うことに関心を持って取り組んでいることが分かる。

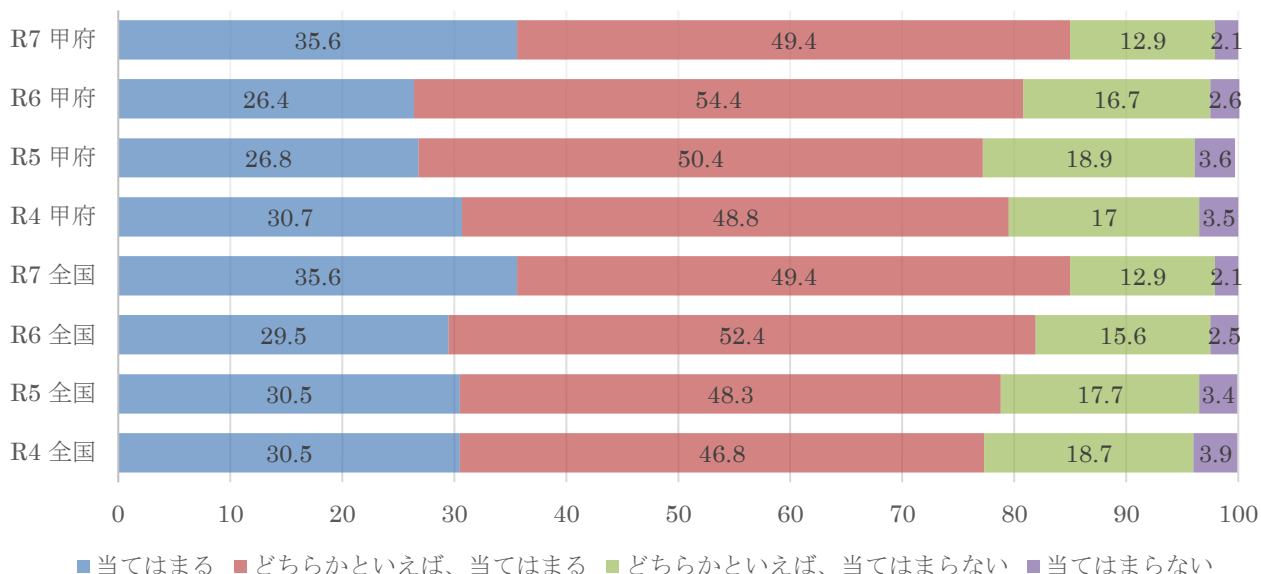
○「解答時間は十分でしたか」について、肯定的な回答が、国語も数学も全国平均を下回った。国語では、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうとした」、「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた」について、全国平均を上回った。数学では、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうとした」、「書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた」について、全国平均とほぼ同等であった。時間が足りなかったが、書く問題に最後まで取り組もうとしている様子が見える。

報告：第12号

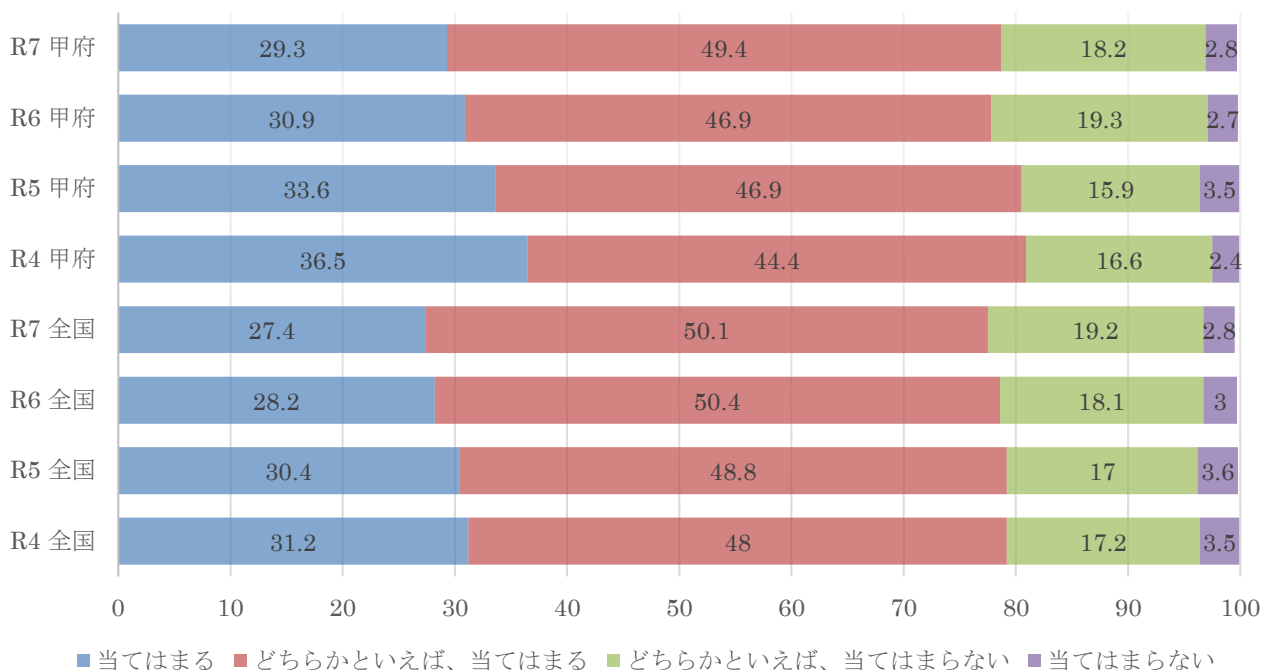
☆児童生徒質問調査のうち教育活動（「主体的・対話的で深い学び」）に関わる資料①

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

小学校



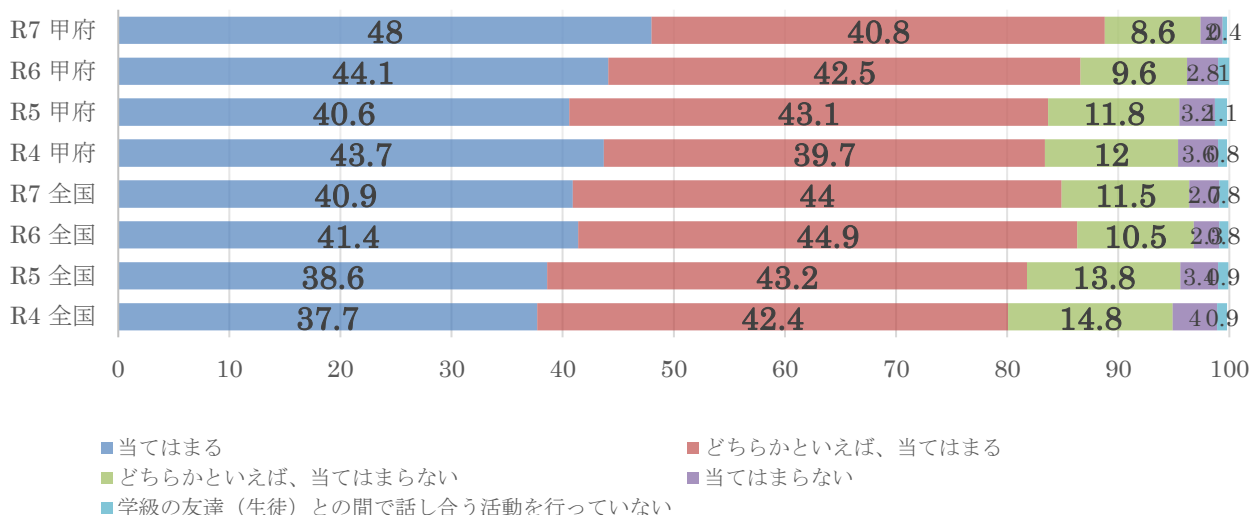
中学校



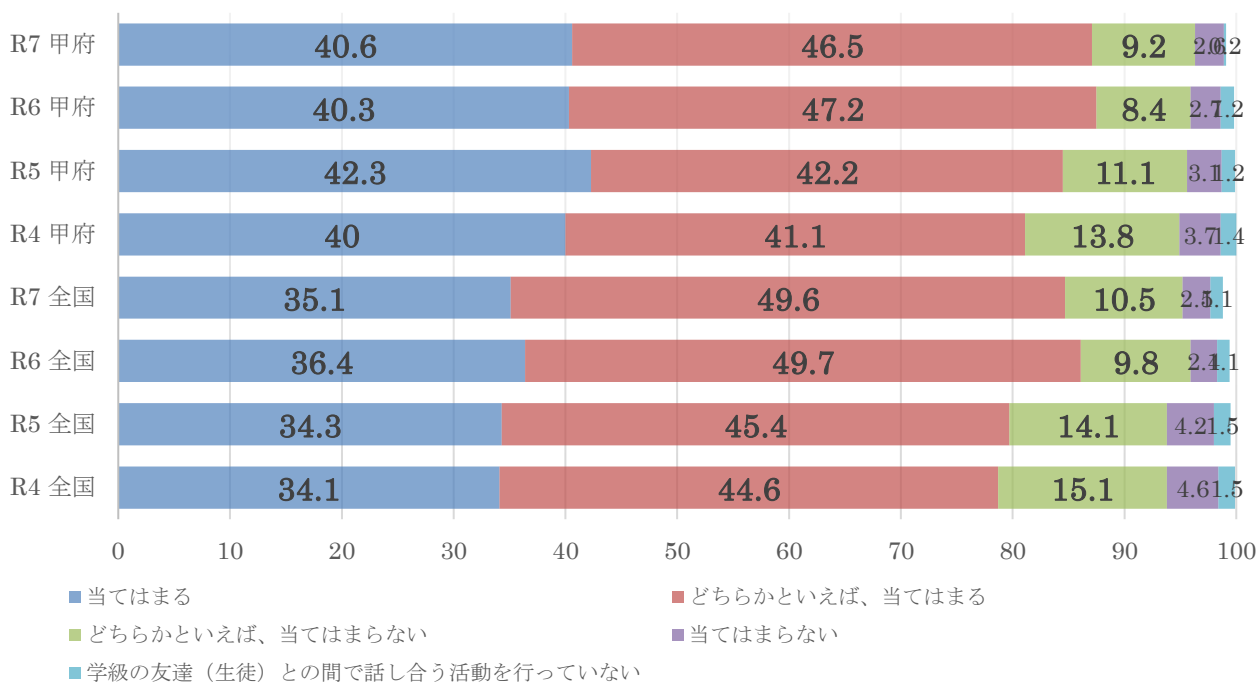
報告：第12号

学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか

小学校



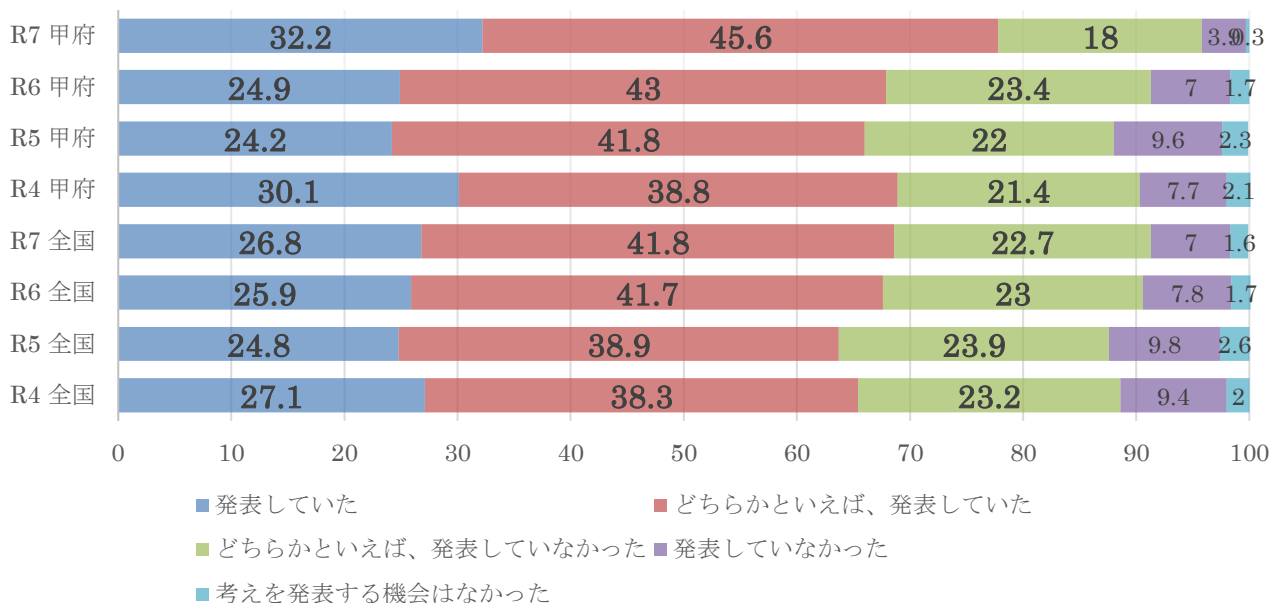
中学校



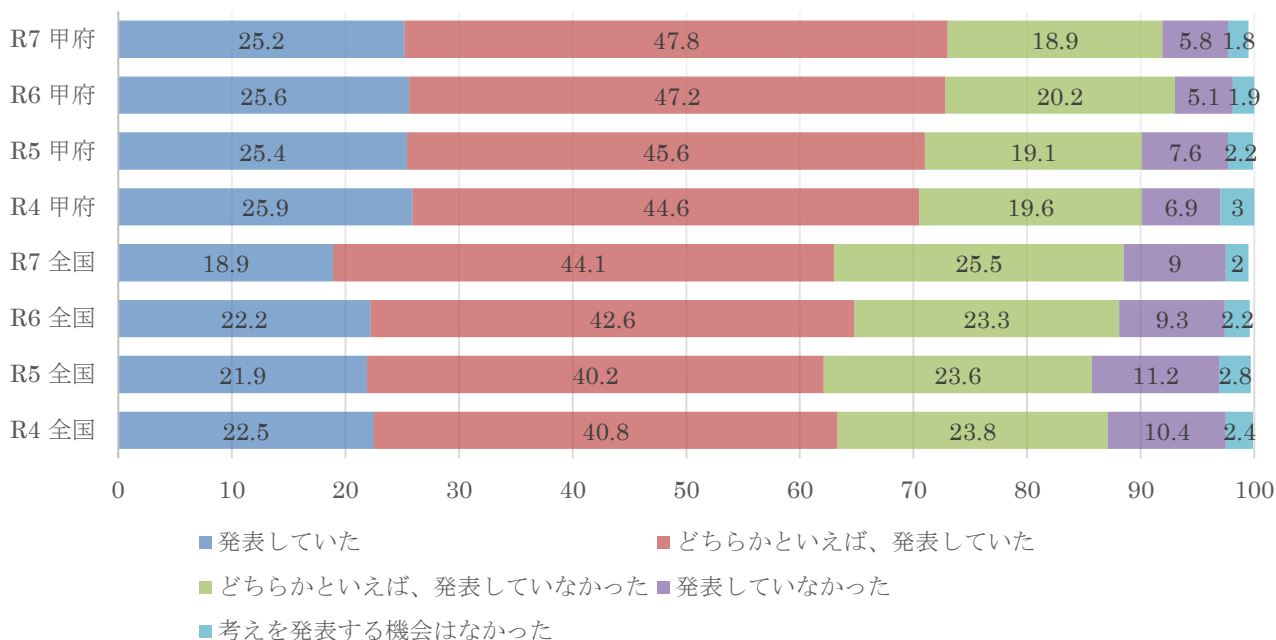
報告：第12号

授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

小学校



中学校

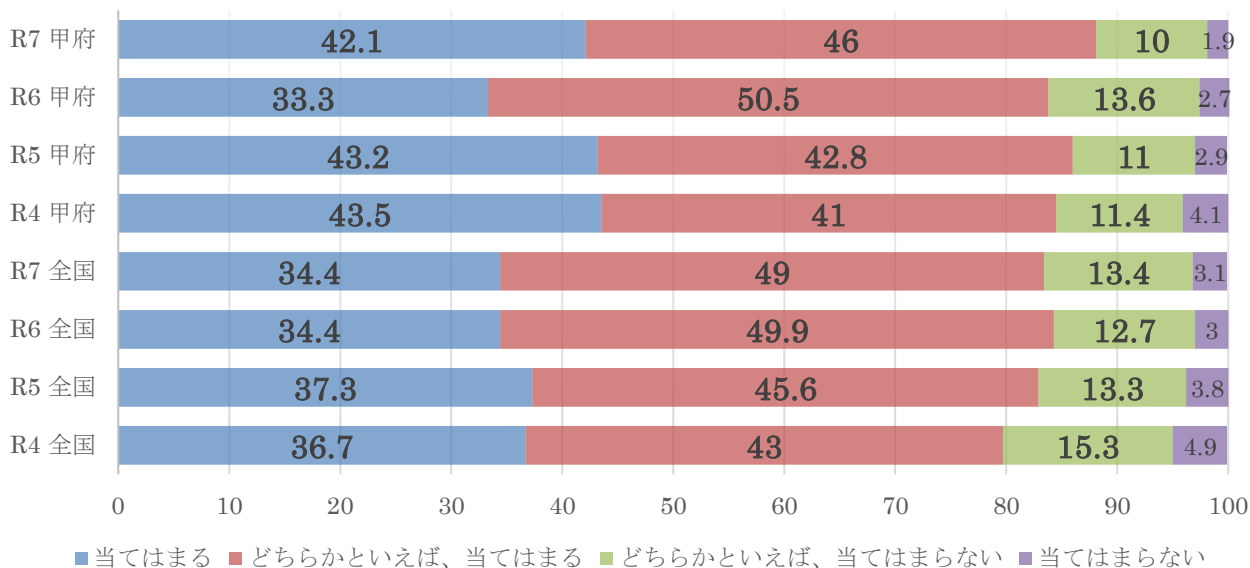


報告：第12号

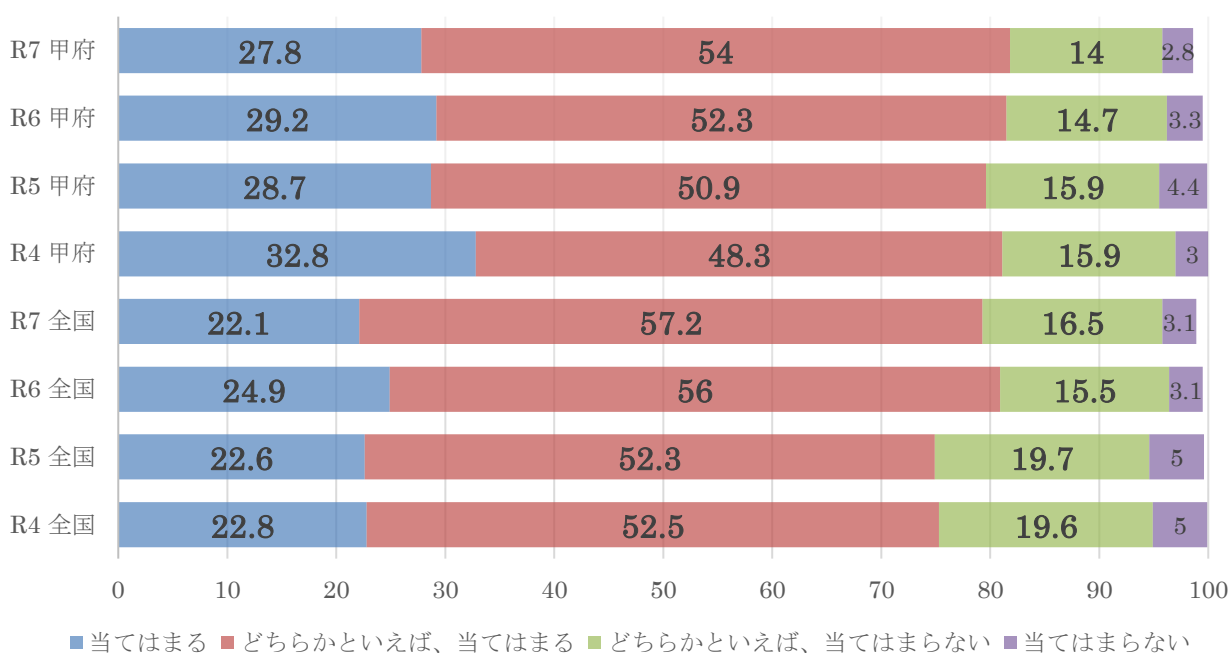
☆児童生徒質問調査のうち教育活動（個別最適な学び）に関わる資料②

5年生まで【1，2年生のとき】に受けた授業は，自分にあった教え方，教材，学習時間などになっていましたか
 ※【 】内は中学校の質問

小学校



中学校

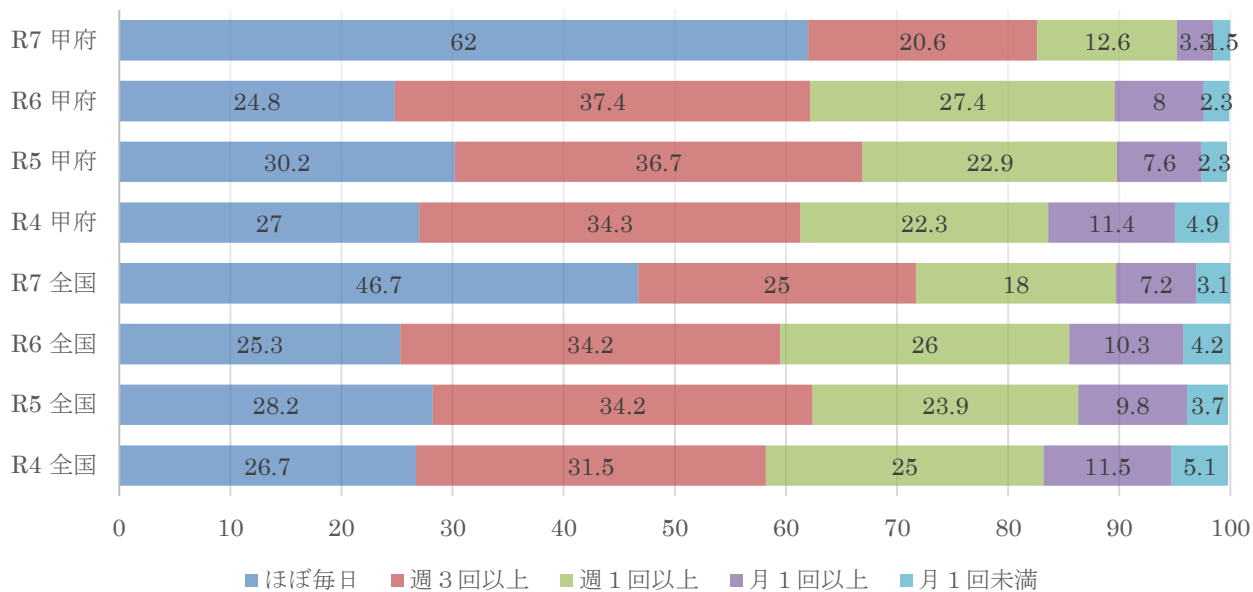


報告：第 1 2 号

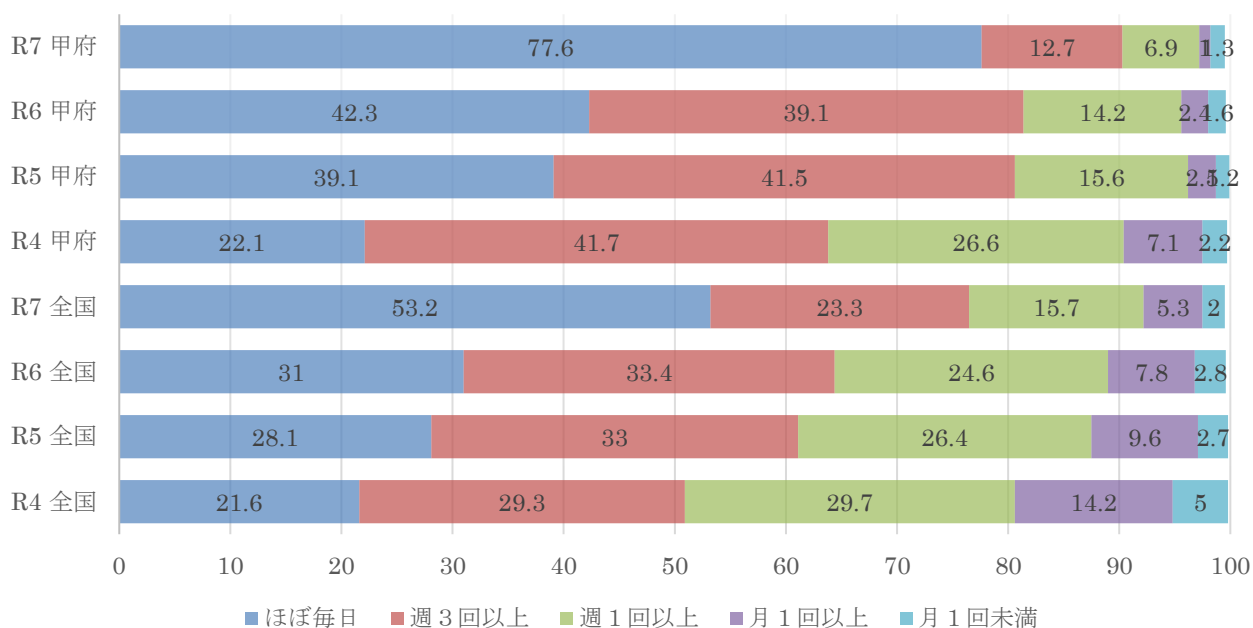
☆児童生徒質問調査のうち「I C T」に関わる資料

5年生まで【1，2年生】に受けた授業で，PC・タブレットなどのICT機器を，どの程度使用しましたか

小学校



中学校

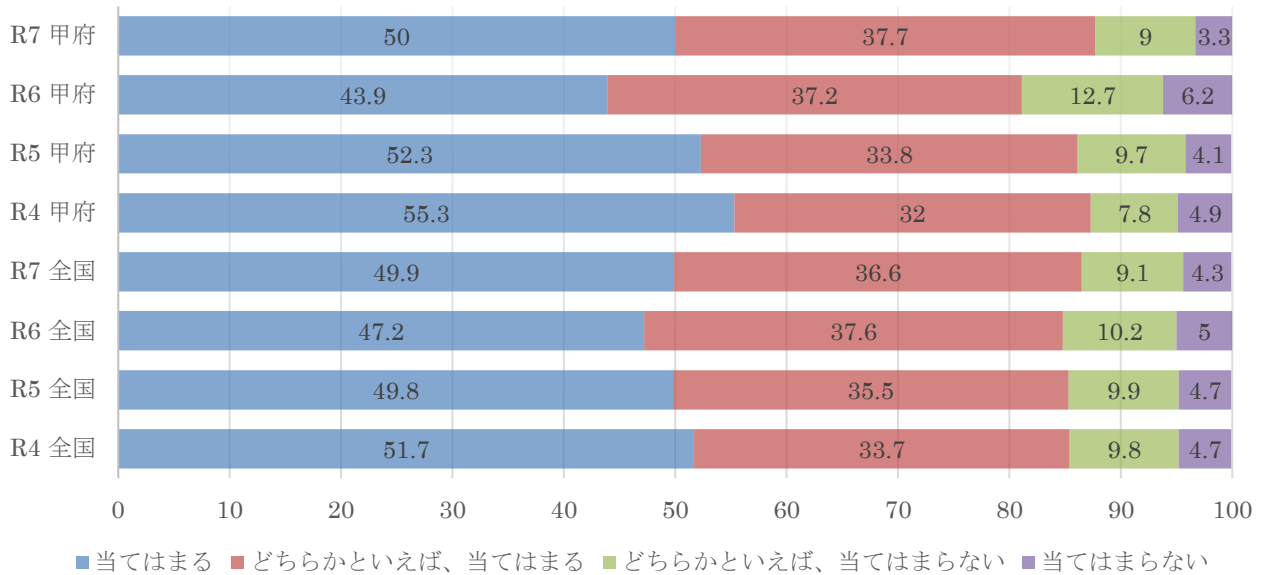


報告：第12号

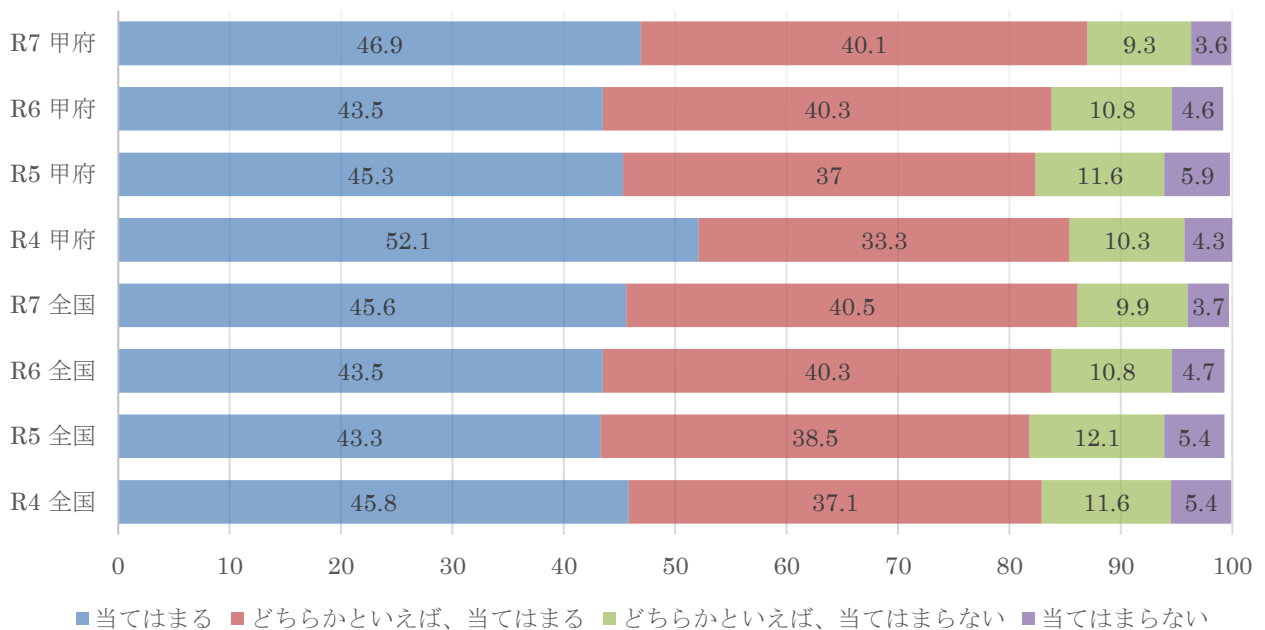
☆児童生徒質問調査のうち「その他」の資料

学校に行くのは楽しいと思いますか

小学校



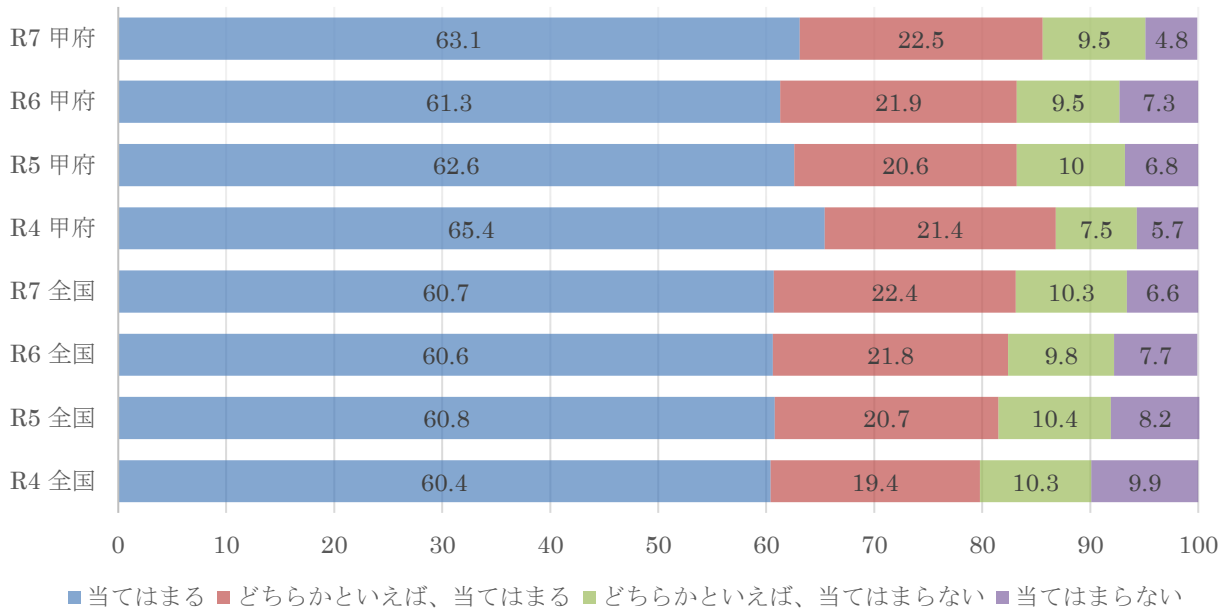
中学校



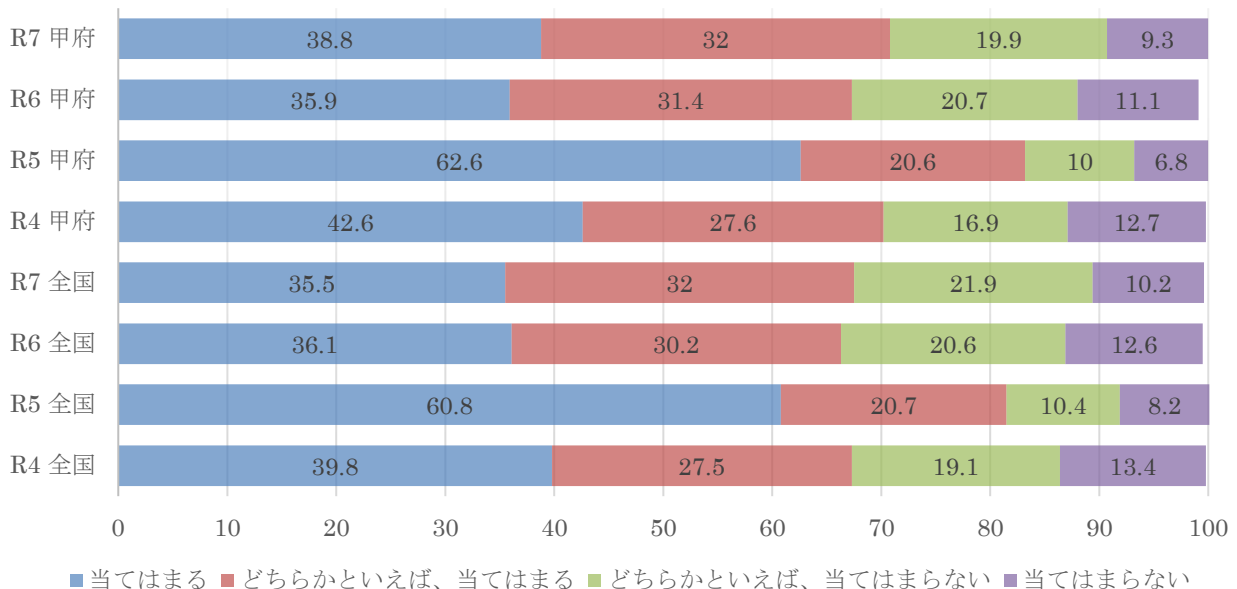
報告：第12号

将来の夢や目標を持っていますか

小学校

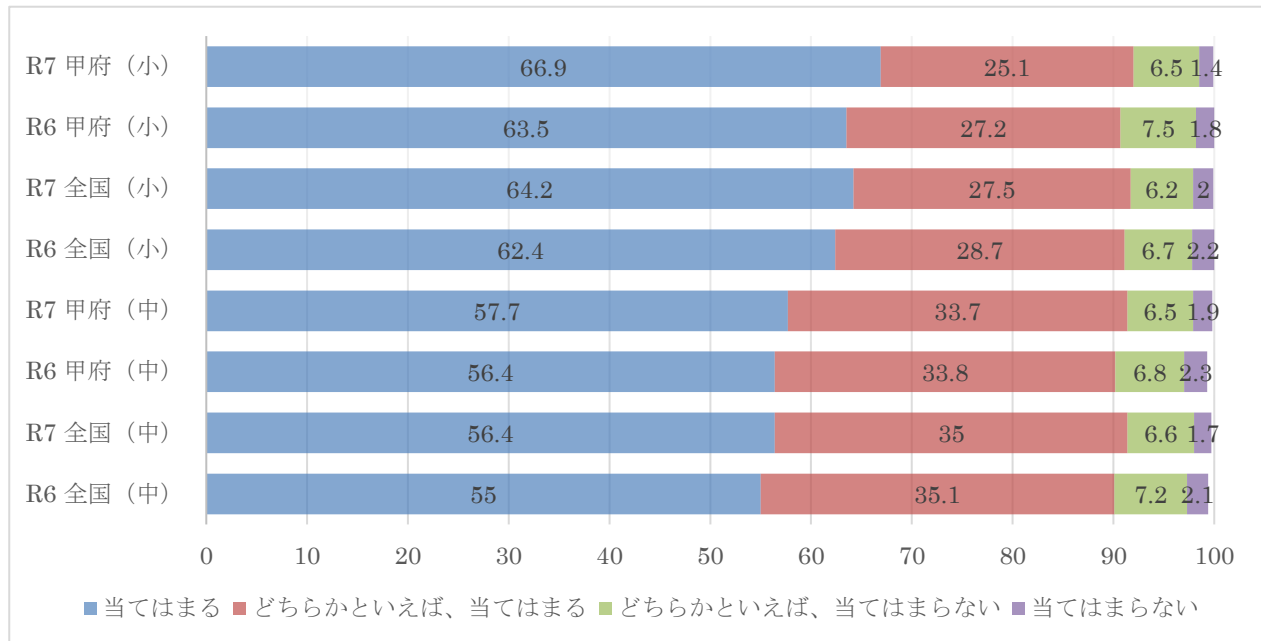


中学校

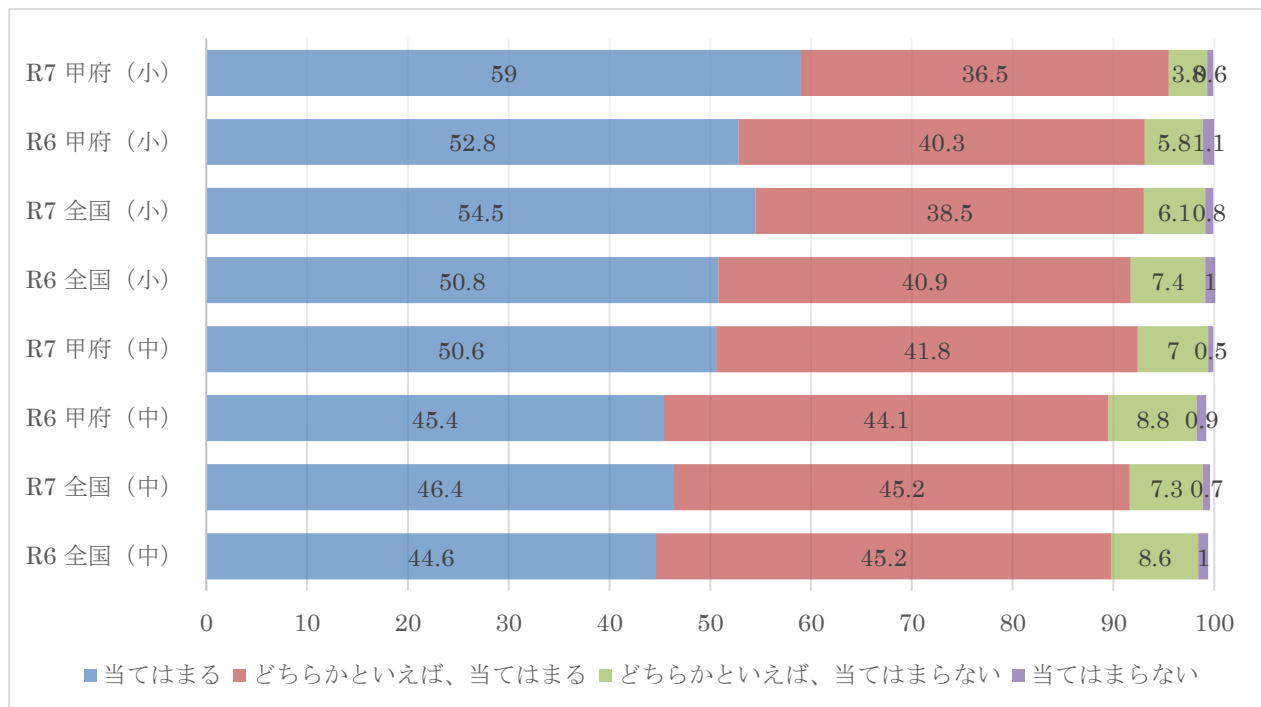


報告：第12号

友達関係に満足していますか



普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



報告：第12号

(2) 学校質問調査の特徴

(全国平均：全国平均との比較)

△調査対象学年の児童（生徒）は、熱意をもって勉強していると思いますか

〔小学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	<u>100</u> % (90.3% : +9.7)
〔中学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	75.0 % (86.5% : -11.5)

△調査対象学年の児童（生徒）は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

〔小学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	<u>100</u> % (85.9% : +14.1)
〔中学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	75.0 % (92.0% : -17.0)

△調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

〔小学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	<u>100</u> % (89.3% : +10.7)
〔中学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	75.0 % (88.2% : -13.2)

△調査対象学年の児童（生徒）は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

〔小学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	<u>100</u> % (94.2% : +5.8)
〔中学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	83.4 % (95.1% : -11.7)

△調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学習指導において、児童（生徒）一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか

〔小学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」	<u>100</u> % (91.0% : +9.0)
〔中学校〕	「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」	<u>100</u> % (87.8% : +12.2)

△調査対象学年の児童（生徒）に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか

〔小学校〕	「よくしている」「どちらかといえば、よくしている」	<u>100</u> % (92.7% : +7.3)
〔中学校〕	「よくしている」「どちらかといえば、よくしている」	<u>100</u> % (91.5% : +8.5)

△調査対象学年の児童（生徒）に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

〔小学校〕	「よくしている」「どちらかといえば、よくしている」	<u>100</u> % (94.9% : +5.1)
〔中学校〕	「よくしている」「どちらかといえば、よくしている」	<u>100</u> % (94.2% : +5.8)

△調査対象学年の児童（生徒）に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童（生徒）が意思決定できるような指導を行っていますか

〔小学校〕	「よくしている」「どちらかといえば、よくしている」	<u>100</u> % (93.8% : +6.2)
〔中学校〕	「よくしている」「どちらかといえば、よくしている」	<u>100</u> % (92.6% : +7.4)

△調査対象学年の児童（生徒）に対する指導に関して、前年度までに学習評価の方針を児童に示した上で、児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童（生徒）の学習改善に生かすことを心がけましたか

〔小学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	<u>100</u> % (89.5% : +10.5)
〔中学校〕	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	<u>100</u> % (95.8% : +4.2)

報告：第12号

△調査対象学年の児童（生徒）に対する算数（数学）の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか

〔小学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 100% (91.3% : +8.7)

〔中学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 83.3% (89.6% : -6.3)

△調査対象学年の児童（生徒）に対する理科の授業において、前年度までに、課題解決の過程における自分や友だちの学びの深まりや疑問に思ったことを振り返ることができるような指導を行いましたか

〔小学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 100% (93.2% : +6.8)

〔中学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 91.6% (90.2% : +1.4)

△調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか

〔小学校〕 「ほぼ毎日（1日に複数（1回）の授業で活用）」 95.8% (84.8% : +11.0)

〔中学校〕 「ほぼ毎日（1日に複数（1回）の授業で活用）」 50.0% (55.9% : -5.9)

△コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (93.3% : +6.7)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 91.7% (89.0% : +2.7)

△コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、「社会に開かれた教育課程」の実現に効果がありましたか

〔小学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 100% (92.6% : +7.4)

〔中学校〕 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」 83.4% (87.0% : -3.6)

△調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、家庭学習について、児童が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか

〔小学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 100% (90.6% : +9.4)

〔中学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 100% (85.9% : +14.1)

△調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学校では、児童（生徒）が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童（生徒）の学習改善に生かしましたか

〔小学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 100% (90.4% : +9.6)

〔中学校〕 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」 100% (84.0% : +16.0)

△令和6年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）

〔小学校〕 「よく行った」「行った」 100% (89.0% : +11.0)

〔中学校〕 「よく行った」「行った」 83.3% (83.4% : -0.1)

報告：第12号

▼調査対象学年の児童（生徒）が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

〔小学校〕 「ほぼ毎日」「週3回以上」 41.3% (52.2% : -10.9)

〔中学校〕 「ほぼ毎日」「週3回以上」 50.0% (52.3% : -2.3)

▼教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか

〔小学校〕 「よく活用している」「行ったどちらかといえば、活用している」 66.7% (78.0% : -11.3)

〔中学校〕 「よく活用している」「行ったどちらかといえば、活用している」 66.7% (78.3% : -11.6)

▼児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

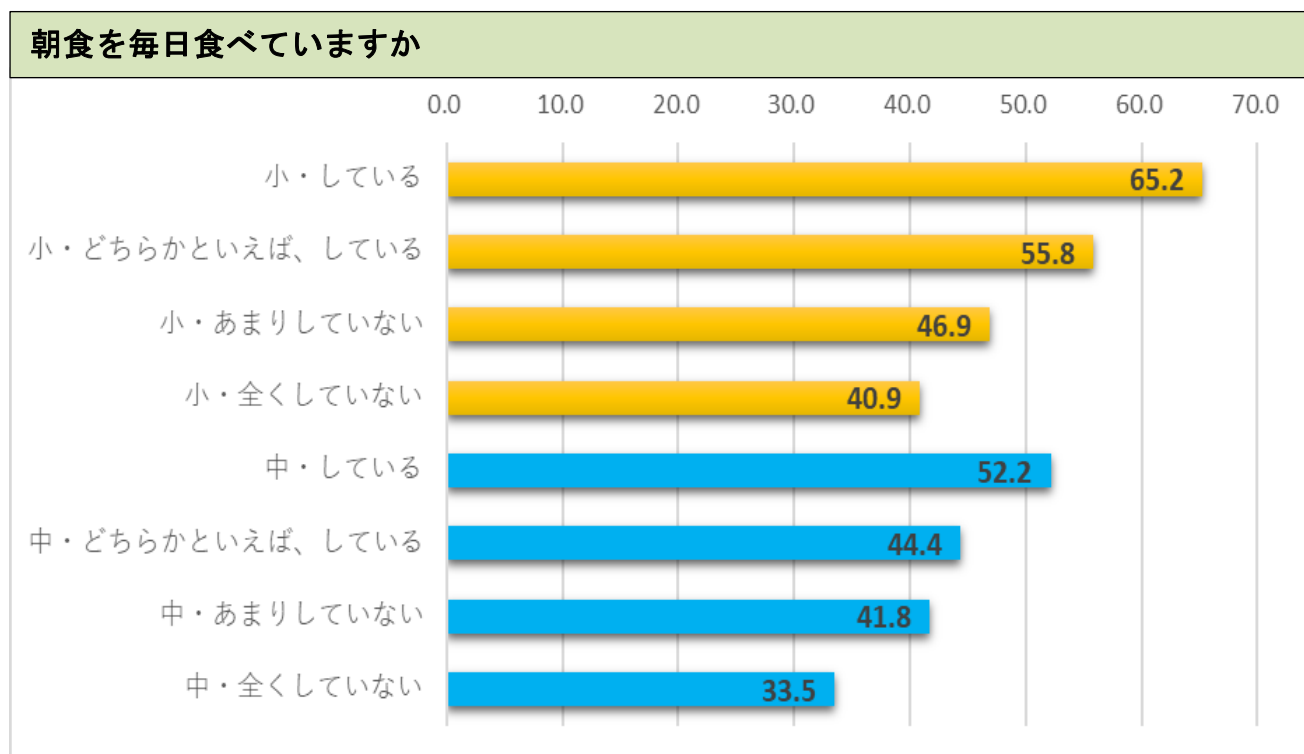
〔小学校〕 「毎日持ち帰って、毎日（時々）利用させている」 20.8% (40.2% : -19.4)

〔中学校〕 「毎日持ち帰って、毎日（時々）利用させている」 41.6% (49.5% : -7.9)

資料1 平均正答率と質問調査の相関関係

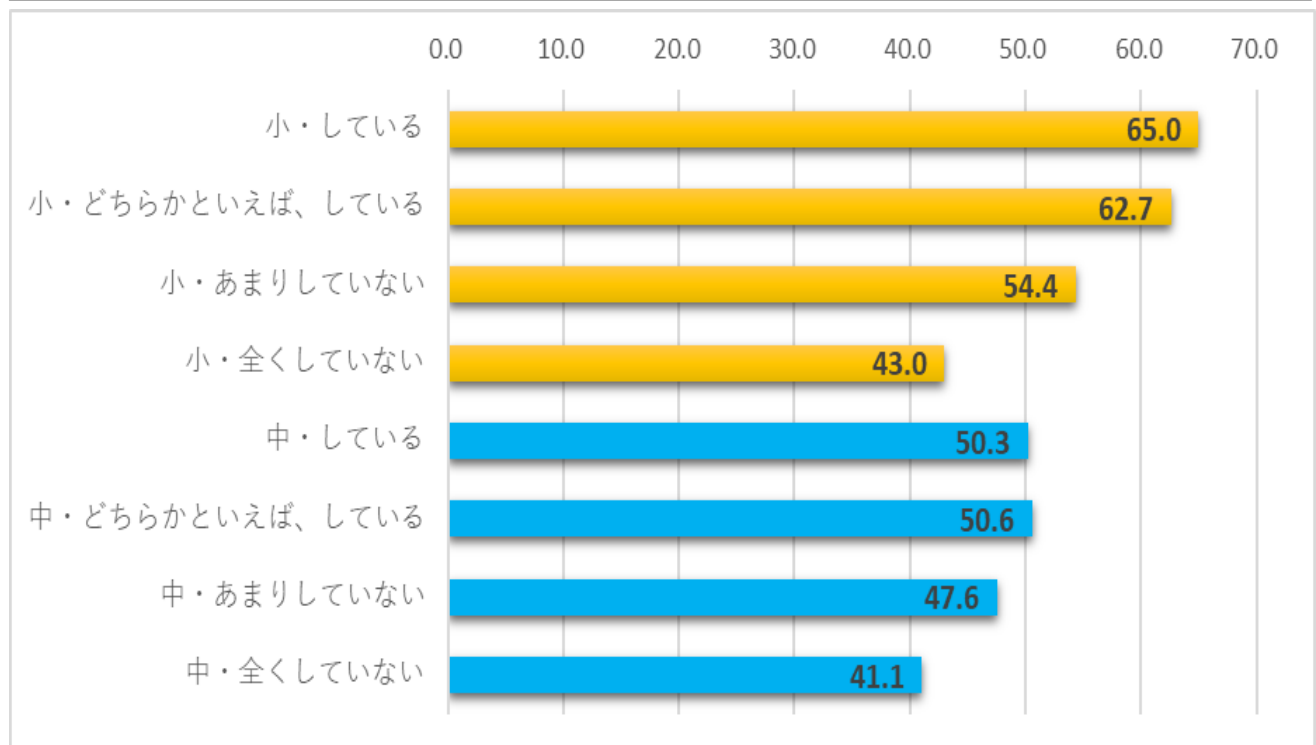
このグラフにおける「合計平均」は、平均正答率の和（国語，算数・数学の平均正答率の合計を2でわったもの。棒グラフが長いほど、全国学力・学習状況調査の結果（平均正答率）が高い。

<基本的生活習慣等>

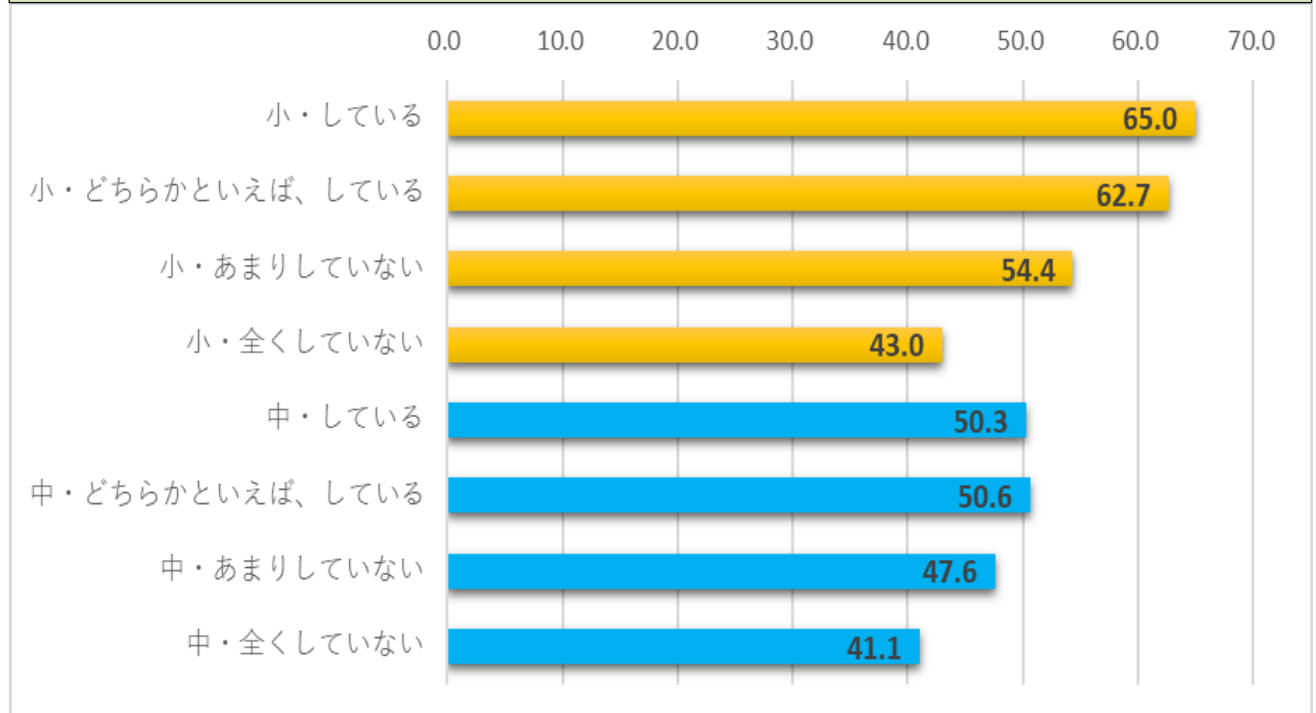


報告：第12号

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



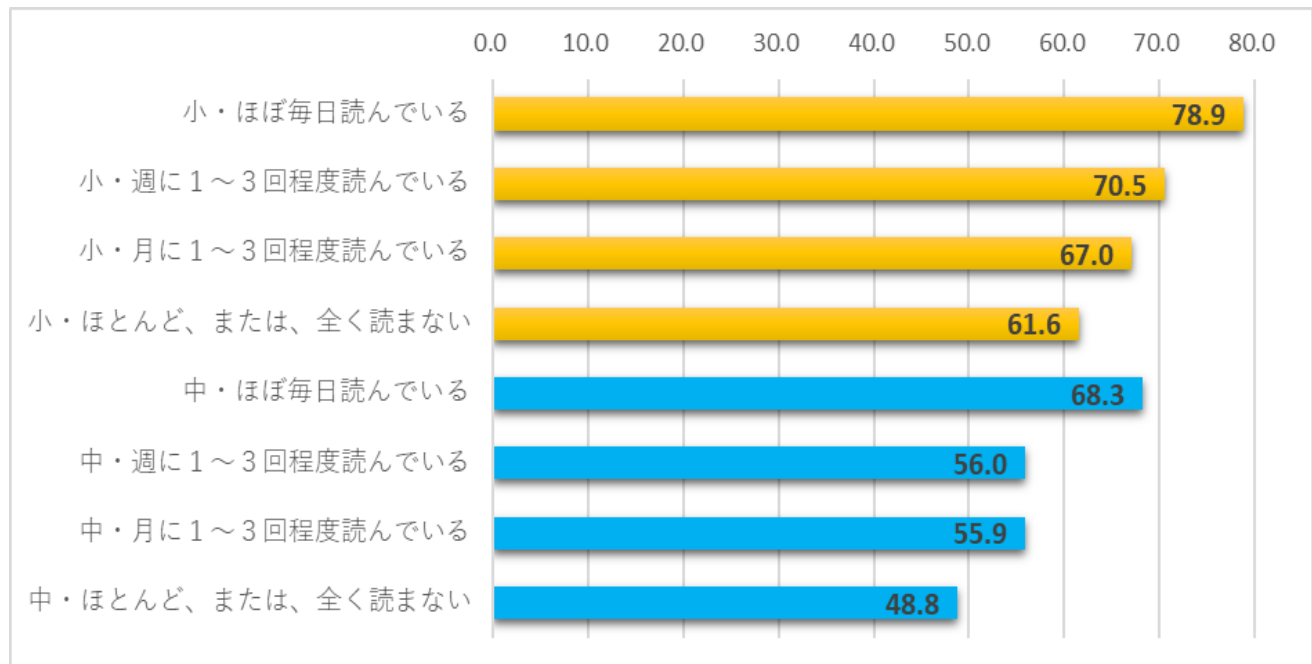
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



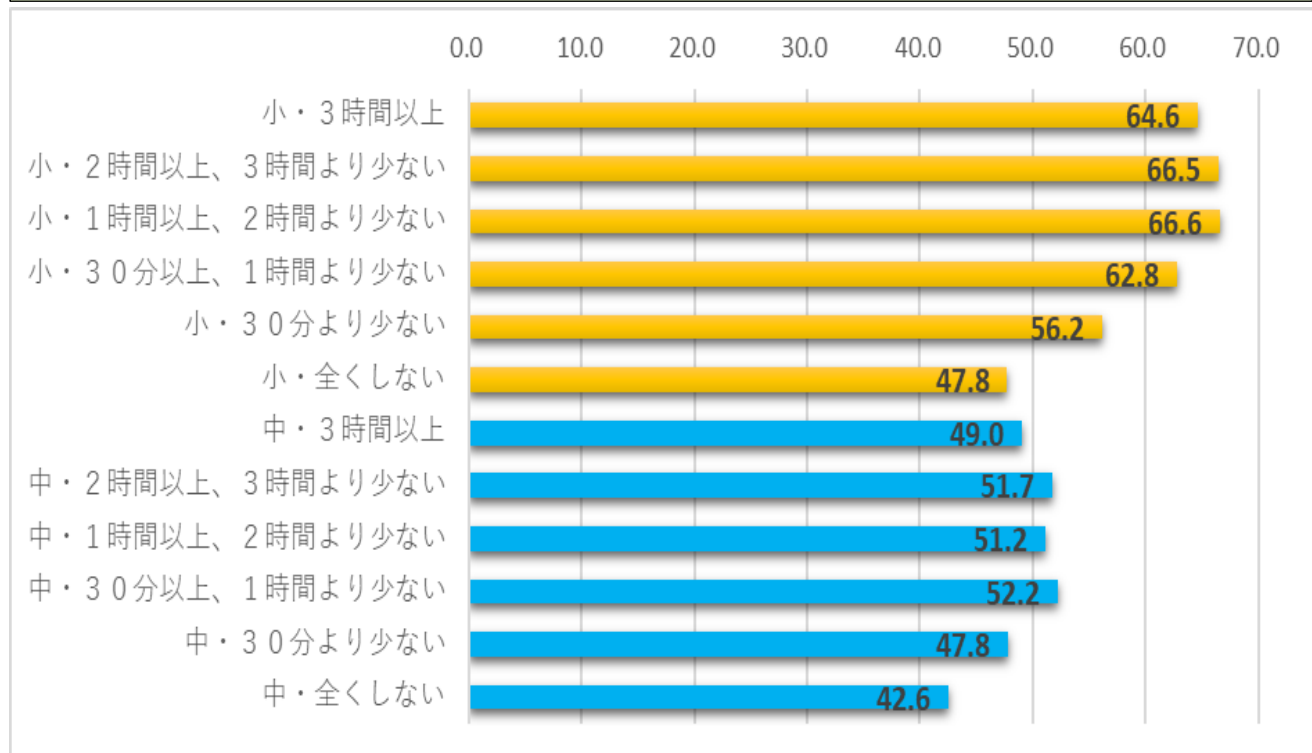
報告：第 1 2 号

<学習習慣、学習環境等>

新聞を読んでいますか



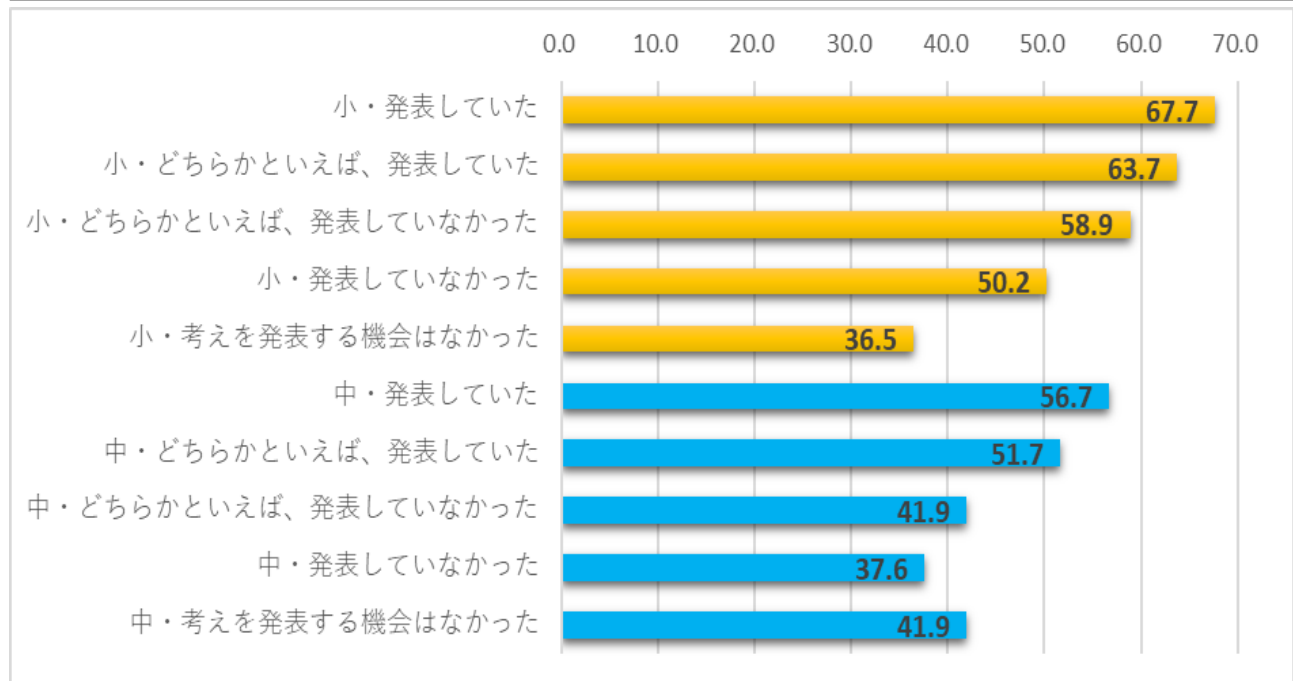
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



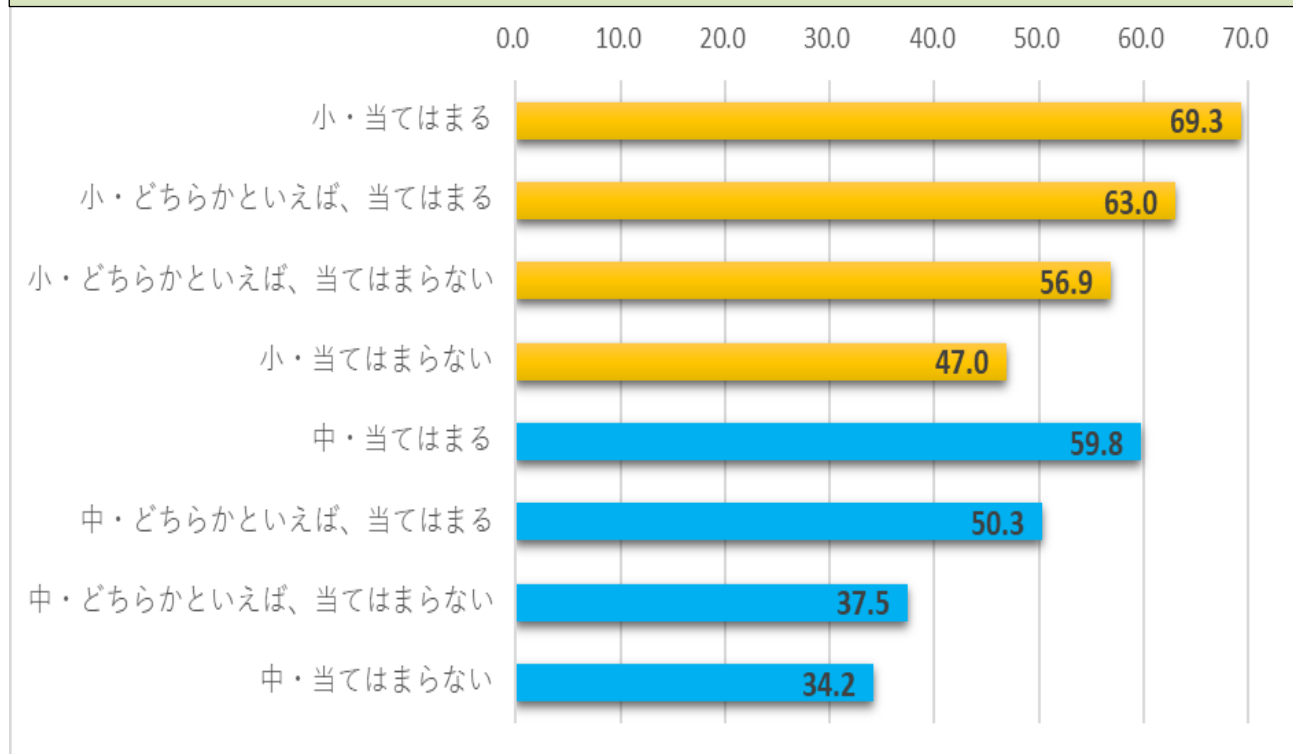
報告：第12号

＜主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善・個別最適な学びに関する取組状況＞

前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

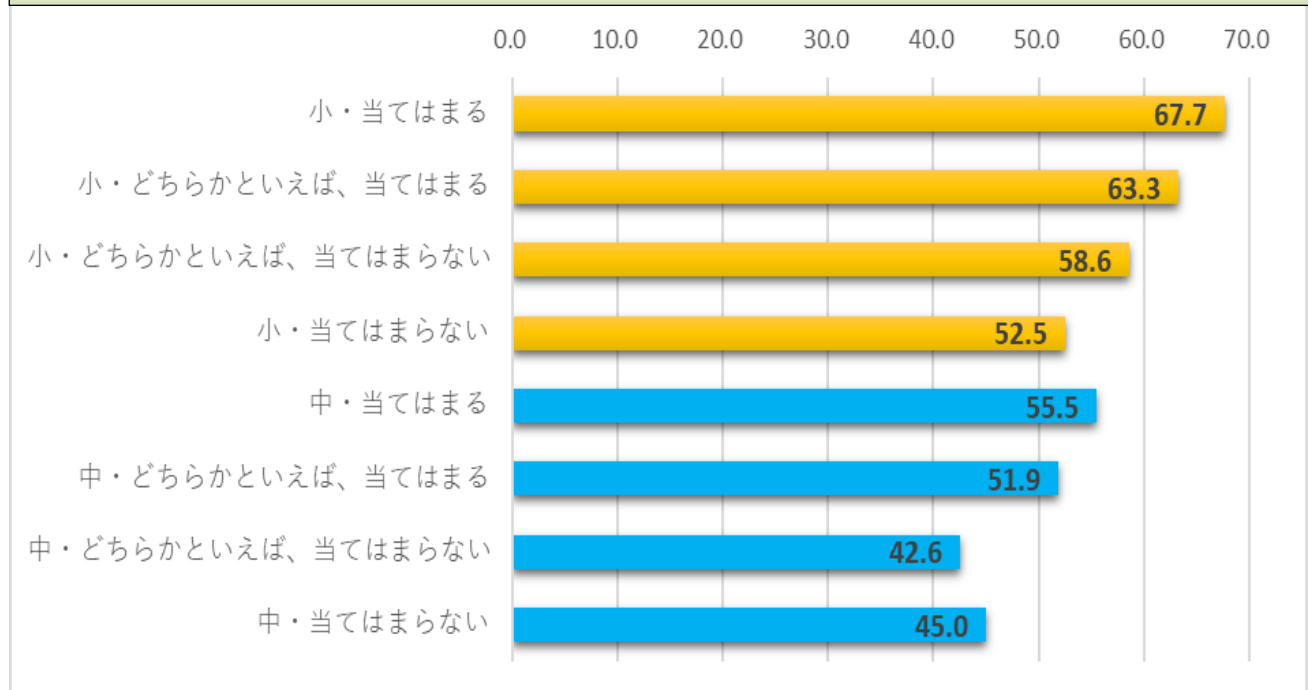


昨年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

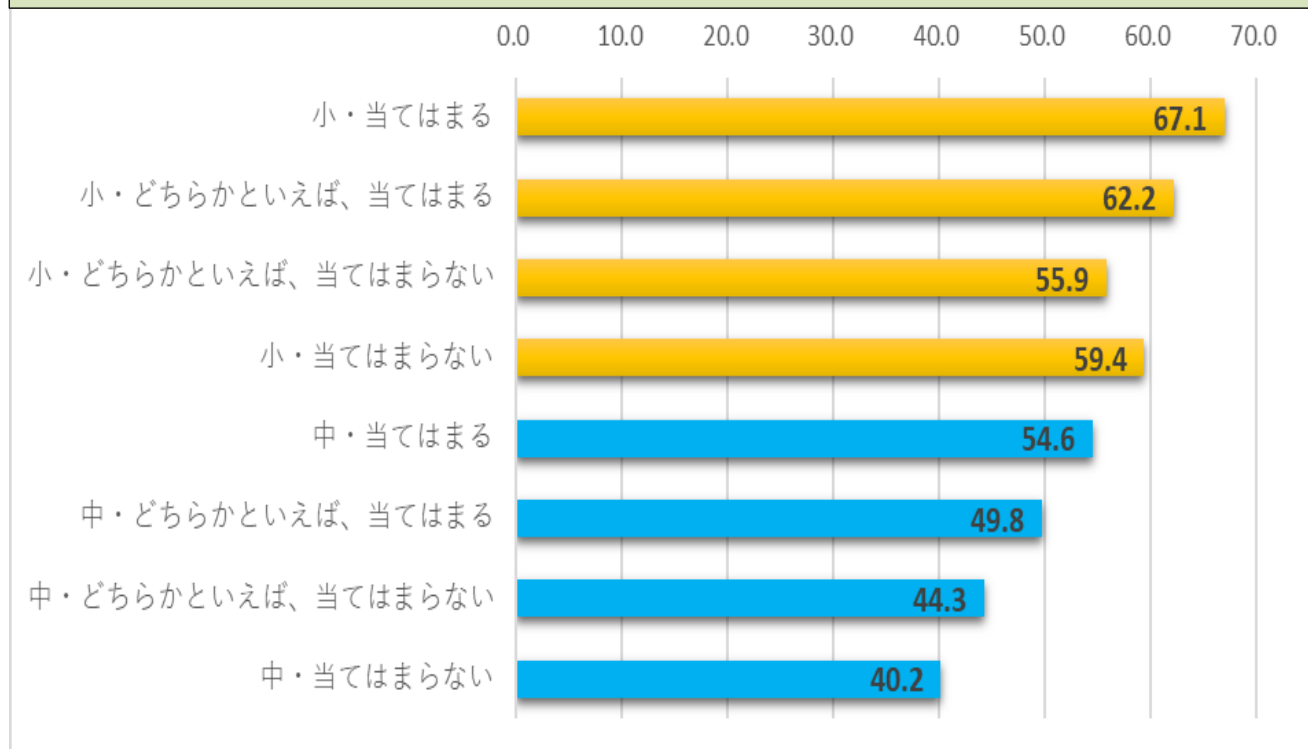


報告：第12号

昨年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



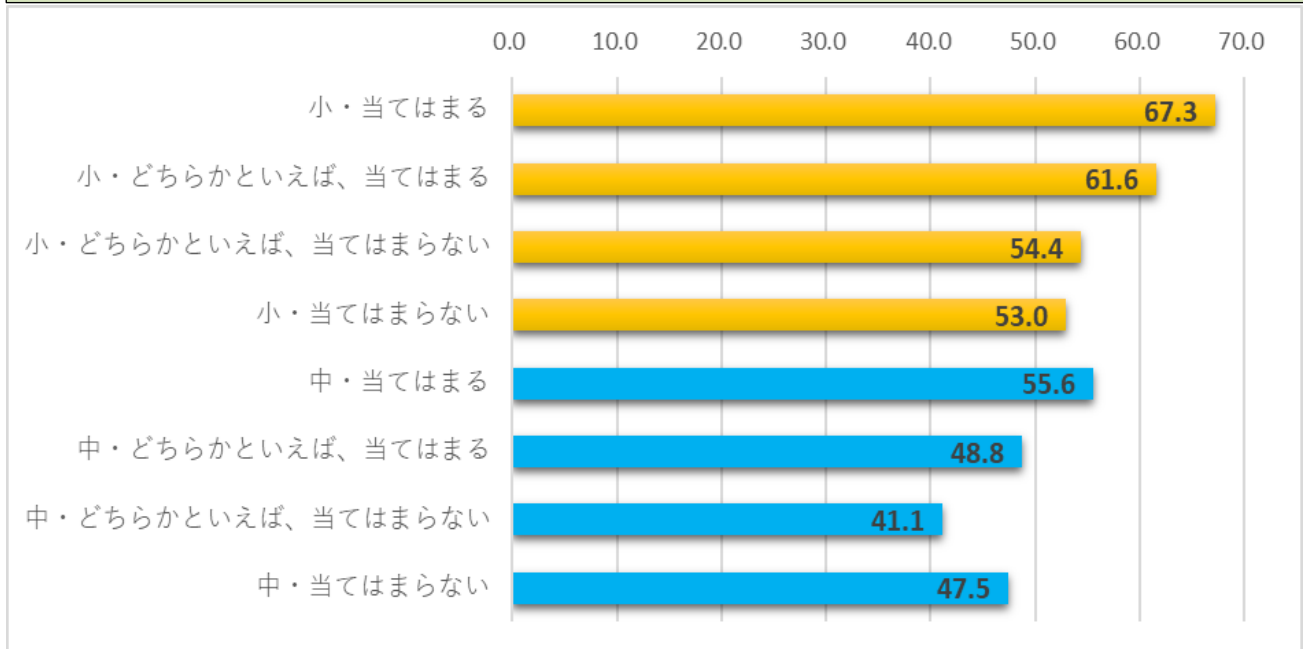
昨年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



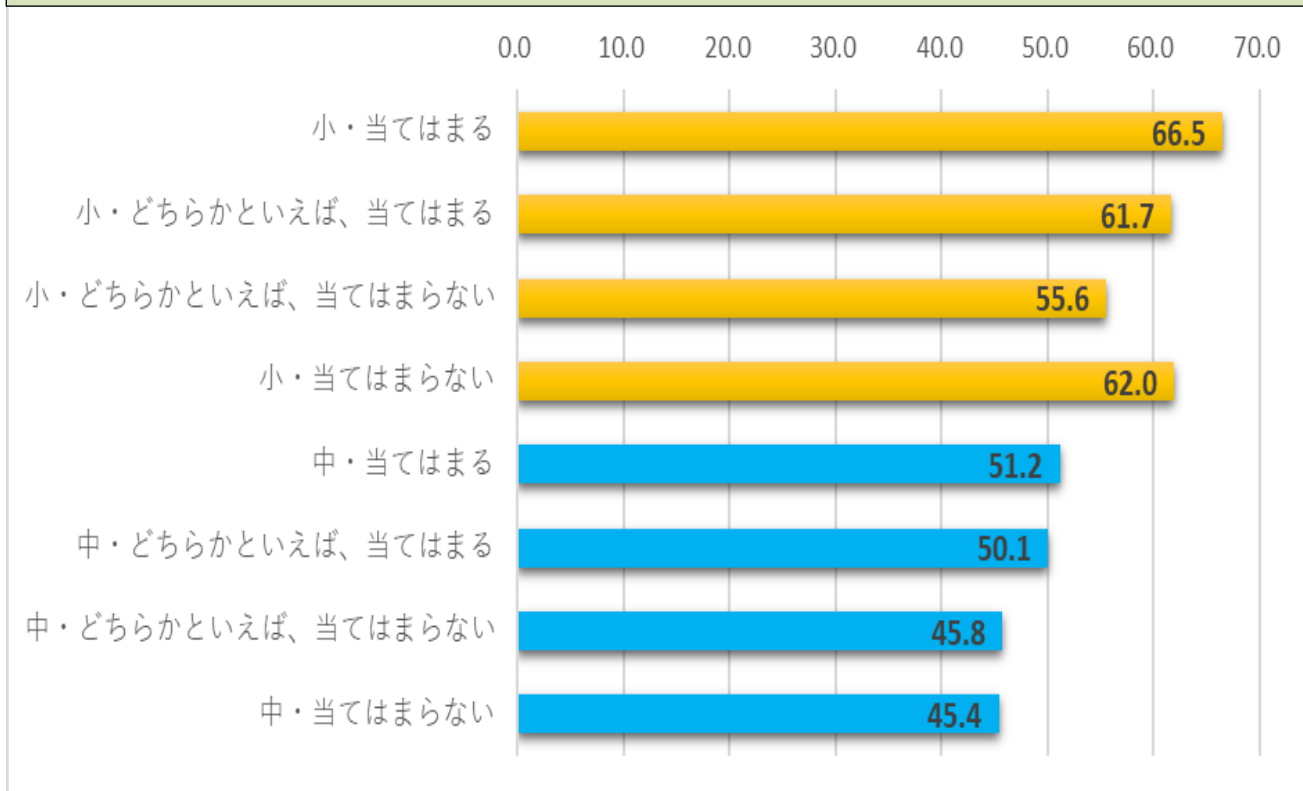
報告：第12号

＜総合的な学習の時間、学級活動＞

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



報告：第12号

資料2 令和7年度甲府市学校教育指導指針に関わって

令和7年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問調査から、甲府市学校教育指導指針との関わりについて分析した。

〈肯定的な回答について〉

*国・県両方を上回っている（または同じ）…◎

*国もしくは県を上回っている（または同じ）…○

*国・県両方を下回っている …△

1 重点項目に関わる設問の回答状況

① 「生きる力」を育む教育課程の編成

質 問 事 項	肯定的な回答について	R7	R6
将来の夢や目標を持っている 〈児童生徒質問調査 小No.7 中No.7〉	小：国を上回る・県を下回る	○	○
	中：国を上回る・県を下回る	○	○
各教科の教育目標や内容の相互関連を生かした教育課程の作成 〈学校質問調査 小No.14 中No.14〉	小：国・県を下回る	△	◎
	中：国・県を上回る	◎	△
特別支援教育への理解・特性に応じた指導の工夫 〈児童生徒質問調査 小No.69 中No.69〉	小：国・県を上回る	◎	△
	中：国・県を下回る	△	◎

② 確かな学力の育成

質 問 事 項	肯定的な回答について	R7	R6
習得・活用・探究の学習過程を見通した指導の工夫 〈学校質問調査 小No.33 中No.33〉	小：国・県を下回る	△	◎
	中：国・県を下回る	△	◎
学級活動における一人一人の児童生徒が意思決定できる指導の工夫 〈学校質問調査 小No.38 中No.38〉	小：国・県を上回る	◎	◎
	中：国・県を上回る	◎	△
特別の教科道徳における児童生徒が自ら考え、話し合うような指導の工夫 〈学校質問調査 小No.39 中No.39〉	小：国・県を上回る	◎	◎
	中：国・県を上回る	◎	◎
一人一台端末を活用した授業の頻度（週3回以上） 〈学校質問調査 小No.58 中No.58〉	小：国・県を下回る	△	◎
	中：国・県を下回る	△	△
家庭学習の方法等の児童生徒への教授 〈学校質問調査 小No.80 中No.80〉	小：国・県を上回る	◎	◎
	中：国・県を上回る	◎	△

③ 「思い遣る心」を育む生徒指導の推進の育成

質 問 事 項	肯定的な回答について	R7	R6
人が困っているときは、進んで助ける 〈児童生徒質問調査 小No.8 中No.8〉	小：国を上回る・県を下回る	○	○
	中：国を上回る・県を下回る	○	○
いじめは、どんな理由があってもいけないと思う 〈児童生徒質問調査 小No.9 中No.9〉	小：国・県を上回る	◎	◎
	中：国を上回る・県を下回る	○	◎
困りごとや不安を学校の大人に相談できる 〈児童生徒質問調査 小No.10 中No.10〉	小：国を上回る・県を下回る	○	△
	中：国を上回る・県を下回る	○	△

報告：第12号

人の役に立つ人間になりたい 〈児童生徒質問調査 小No.11 中No.11〉	小：国を上回る・県を下回る	○	○
	中：国・県を下回る	△	△
自分と違う意見について考えるのが楽しい 〈児童生徒質問調査 小No.13 中No.13〉	小：国・県を上回る	◎	△
	中：国・県を上回る	◎	△

④ 健康・体力の向上

質 問 事 項	肯定的な回答について	R7	R6
朝食を毎日食べる 〈児童生徒質問調査 小No.1 中No.1〉	小：国・県を上回る	◎	○
	中：国・県を下回る	△	◎
毎日、同じくらいの時刻に寝ている 〈児童生徒質問調査 小No.2 中No.2〉	小：国・県を上回る	◎	○
	中：国を上回る・県を下回る	○	○
毎日、同じくらいの時刻に起きている 〈児童生徒質問調査 小No.3 中No.3〉	小：国・県を上回る	◎	○
	中：国・県を上回る	◎	△

⑤ 信頼される学校づくりの推進

質 問 事 項	肯定的な回答について	R7	R6
教育活動への地域等の外部の資源の活用 〈学校質問調査 小No.16 中No.16〉	小：国・県を下回る	△	△
	中：国・県を下回る	△	△
C Sなどの取組をとおした保護者や地域との相互理解 〈学校質問調査 小No.77 中No.77〉	小：国・県を上回る	◎	◎
	中：国・県を上回る	◎	◎